

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

整理番号

農 薬 抄 録

一般名:エトフェンプロックス
【殺虫剤】

(作成年月日) 昭和 61 年 5 月 12 日
平成 21 年 9 月 4 日改訂
平成 22 年 1 月 20 日改訂
平成 24 年 11 月 15 日改訂
平成 25 年 8 月 30 日改訂
平成 25 年 9 月 10 日改訂
平成 27 年 7 月 21 日改訂
平成 27 年 11 月 30 日改訂

(作成会社名) 三井化学アグロ株式会社
(作成責任者・所属)

	(会社名)	(担当部課)	(担当者名)	(TEL)
連絡先	三井化学アグロ株式会社			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

目 次

I.	開発の経緯.....	1
II.	物理的・化学的性状.....	3
III.	生物活性.....	21
IV.	適用及び使用上の注意事項.....	24
V.	残留性及び環境中予測濃度算定関係.....	52
VI.	有用動植物等に及ぼす影響.....	182
VII.	使用時安全上の注意、解毒法等.....	221
VIII.	毒性.....	224
1.	原体.....	233
(1)	急性毒性.....	233
(2)	皮膚及び眼に対する刺激性.....	240
(3)	皮膚感作性.....	244
(4)	急性神経毒性.....	246
(5)	急性遅発性神経毒性.....	249
(6)	90日間反復経口投与毒性.....	250
(7)	反復経口投与神経毒性.....	290
(8)	28日間反復投与遅発性神経毒性.....	296
(9)	1年間反復経口投与毒性及び発がん性.....	297
(10)	繁殖毒性及び催奇形性.....	356
(11)	変異原性.....	379
(12)	生態機能影響.....	399
(13)	その他.....	409
2.	代謝分解物.....	452
3.	製剤.....	473
IX.	動植物及び土壌等における代謝分解.....	550

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

I. 開発の経緯

昭和 53 年から、三井東圧化学株式会社(現三井化学アグロ株式会社)の農薬研究陣は、ピレスロイド系化合物の殺虫活性に着目し、合成及びスクリーニングを積み重ねた。

その結果、昭和 55 年に温血動物や魚類に対し比較的毒性で広範囲の害虫に有効であり、化学構造が炭素、水素、及び酸素だけからなるエトフェンプロックスを見出した。

従来のピレスロイド系殺虫剤は、化学構造的にすべてエステル結合を有しており、しかもそれが殺虫活性を発現する必須条件のように考えられたなかで、エステル結合ではなくエーテル結合を有し、既存薬剤の持ついくつかの欠点を補う本剤の発見は農薬研究者の間で国際的な評価を得ている。

本剤の有効性について:

昭和 55 年に社内における基礎的薬効試験を実施し、昭和 56 年より MTI-500 の試験名にて日本植物防疫協会を通して全国規模の公式委託試験を開始した。剤型は水稲用は DL 粉剤、粒剤、乳剤及び水和剤を供試し、野菜・果樹・茶用は乳剤、または水和剤とした。その結果、水稲用についてはウンカ・ヨコバイ類、イネミズゾウムシ、カメムシ等の害虫に広範囲に有効であり、果樹、野菜等では鱗翅目害虫やスリップス類の主要害虫の防除に実用性の有ることが判明した。特に近年、九州を中心とした西南暖地で大問題となっている有機リン及びカーバメート両剤に抵抗性を持つツマグロヨコバイ・ウンカ類に、低薬量で効果を示す事から、多方面から注目を集めている。また、本剤はある種の害虫(コアオハナムグリ等)に対し忌避的な作用による被害防止効果もあることも認められている。更に、過去の膨大な件数の委託試験の中で薬害の事例報告がなく、各種作物に対する安全性が高いことも特徴の一つである。昭和 59 年からは水稲用を中心に、他の殺虫剤、いもち病剤あるいは紋枯病剤等との各種混合剤の試験も実施し、併発する病害虫の同時防除技術を確立した。

その後、くん蒸剤、マイクロカプセル剤、油剤等の新剤型においても上記害虫等への有効性が確認されている。

既存ピレスロイド剤との関連について:

エトフェンプロックスは各種害虫に対し高活性で速効的に作用し、ピレスロイド様の殺虫活性を示す化合物である。この特性は鱗翅目及び半翅目害虫に顕著であり、多くの害虫に対し低薬量で有効である。

一方、化学構造が新規で特異なことから、既存ピレスロイド剤との比較で幾つかの相違点が列挙される。一つは、従来のピレスロイド化合物が、一般に魚に対する毒性が強いのにに対し、本剤は魚に対する毒性が比較的弱く、この系統の化合物としては格段に改善されていること、また、東南アジアにおけるミプシン抵抗性トビイロウンカに対し、各種ピレスロイド剤は交差抵抗性を示すが本剤は交差抵抗性を示さない。更に本剤は物性上、強アルカリ性のボルドー液などとの混用においても性能上まったく問題がないという特徴がある。

安全性について:

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本剤の安全性に関する試験は昭和56年より着手した。慢性毒性、繁殖性に及ぼす影響及び催奇形性等の主要な毒性試験は、英国のハンチンドンリサーチセンターで実施された。これらの試験はアメリカ合衆国連邦規則等その当時の国際的 GLP 基準のもとに実施された。昭和59年10月以降に行った短期の試験、例えば、変異原性、各種製剤に関する毒性試験は農林水産省の定める GLP 基準に従って実施された。エトフェンプロックスの実験動物に対する急性毒性の LD₅₀ 値は、いずれの投与ルートとも投与可能限界値以上であった。

諸外国における開発・登録について:

本剤の諸外国における試験開発は、昭和56年より開始した。本化合物の特徴を生かして東南アジアの水稲・野菜を中心に、綿、その他の作物に、欧州においてはアブラナ、果樹に、ブラジル等ラテンアメリカにおいては果樹・野菜、その他作物への登録を取得しており、それぞれ好評を得ている。特に、東南アジア地区で慢性的に発生し稲を加害するカメムシ、トビイロウンカやウイルス病(ツングロ病)を媒介するツマグロヨコバイの防除剤として有望視されている。フィリピンの国際稲研究所(IRRI)やインドネシアにおける試験結果によれば、既存の多くの殺虫剤がリサーチジェンス現象を誘起させるのに対し、本剤はこのような現象もなく、目的のトビイロウンカを効果的に防除出来ることが判明している。

一方、本剤はハエ・カ・ゴキブリ等の衛生害虫にも有効であり、本剤の特徴である温血動物に対する毒性が低い点を生かし、欧米諸国を中心に生活環境用殺虫剤として登録を取得し使用されている。欧州においては、Biocide Product 8 で再評価を終了し、Biocide Product PT 18 は現在再評価審査されている。また、防疫分野においては WHO の防疫剤としての認可を受けており、現在東南アジア、中近東、中南米、アフリカ諸国において使用されている。

本剤は1993年及び2011年の JMPR での評価の結果、0~0.03 mg/kg/日の ADI が設定され、これにもとづき CCPR において、下表の通り、MRL が設定された。規制対象は親化合物のみとなっている。

農産物名	MRL (ppm)	農産物名	MRL (ppm)
米	0.01	なたね	0.01
りんご	0.6	哺乳類の可食部	0.05
だいず(乾燥)	0.05	陸棲哺乳類の肉類	0.5
ぶどう(乾燥)	8	乳類	0.02
ぶどう	4	家禽の肉類	0.01
とうもろこし	0.05	家禽の可食部	0.01
ネクタリン	0.6	家禽の卵類	0.01
なし	0.6	稲わら及び乾燥飼料	0.05
もも	0.6		

なお、米国、カナダ、EU (欧州連合)、オーストラリア、ニュージーランドについて調査した結果、米国において米等に、EU においてりんご、ぶどう等に MRL が設定されている。また、米国で 0.037 mg/kg/日、EU で 0.03 mg/kg/日の ADI が設定されており、JMPR 及び EU で 1mg/kg / 日の ARfD¹ が設定されている。なお、EPA では ARfD は設定されなかった²。

¹ JMPA (2011 年) では、ウサギ発生毒性試験 (2 報) における母動物の投与初期 (妊娠 6 日) の体重増加量及び摂餌量の低下、着床後胚損失率の増加により NOAEL は 100mg/kg/日であったため、これを根拠として設定された (安全係数 100)。EU (2008 年) では、ウサギ発生毒性試験より NOAEL は 100mg/kg/日であったため、これを根拠として設定された (安全係数 100)。

² EPA (2013 年) では、ラット及びウサギの発生毒性試験を含めた経口投与試験において、単回投与によると考えられる毒性影響は認められなかったことから、ARfD は設定されなかった。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称及び化学構造

(1) 一般名 エトフェンプロックス etofenprox (ISO 名)

(2) 別名 商品名: トレボン[®]、Trebon[®]

試験名: MTI-500

(3) 化学名 (IUPAC 名)

2-(4-ethoxyphenyl)-2-methylpropyl 3-phenoxybenzyl ether

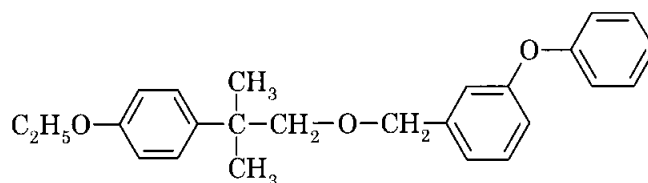
2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンジル=エーテル

(CAS 名)

1-[[2-(4-ethoxyphenyl)-2-methylpropoxy]methyl]-3-phenoxybenzene

1-[[2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロポキシ]メチル]-3-フェノキシベンゼン

(4) 構造式



(5) 分子式: $C_{25}H_{28}O_3$

(6) 分子量: 376.50

(7) CAS No.: 80844-07-1

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 有効成分等の物理的・化学的性状

項目	エトフェンプロックス	
	測定方法/試験機関	
色調	白色	
	JIS Z 8723/三井化学 (1999)	
形状	固体結晶	
	官能法/三井化学 (1999)	
臭気	僅かに芳香臭あり	
	官能法/三井化学 (1999)	
密度	1.172 g/cm ³ (20°C)	
	OECD109 (比重びん法) /RCC (1998 GLP)	
融点	37.4±0.1°C	
	OECD102 (毛細管法) EEC Directive 92/69 A.2 /RCC (1998 GLP)	
沸点	測定不能 (200°Cにて分解)	
	OECD103 (DSC 法) EEC Directive 92/69 A.2 /RCC (1998 GLP)	
蒸気圧	8.13×10 ⁻⁷ Pa (25°C換算)	
	OECD104 (気体流動法) /RCC (2000 GLP)	
解離定数(pKa)	除外理由書/RCC(1998)	
オクタノール/水分配係数 (LogPow)	6.9 (20°C)	
	OECD117 EEC Directive 92/69 A.8 /RCC (1999 GLP)	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

項目		エトフェンプロックス	
		測定方法/試験機関	
溶	水	22.5 µg/L (20°C)	
		OECD105 (カラム溶出法) /RCC (2000 GLP)	
解	機	ヘキサン	667 g/L (20°C)
		ヘプタン	621 g/L (20°C)
		キシレン	856 g/L (20°C)
		トルエン	862 g/L (20°C)
		ジクロロメタン	924 g/L (20°C)
		アセトン	877 g/L (20°C)
		メタノール	49 g/L (20°C)
度	溶	エタノール	98 g/L (20°C)
		酢酸エチル	837 g/L (20°C)
			OECD105 (フラスコ法) /RCC (1998 GLP)
生物濃縮性		BCF _{ss} : 4260 (試験濃度 0.001 mg/L) (ブルーギル)	
		OECD305/RCC (2002 GLP)	
		濃縮倍率 (コイ) 5 µg/L 245~875 倍 0.5 µg/L 76~440 倍	
		環保業第 5 号、葉発第 615 号、 49 基局第 392 号 /化学品検査協会 (1984)	
土壌吸着係数		測定温度: 22°C、4 土壌 K _p ^{ads} : 156~114183 K _p ^{ads} _{oc} : 5778~4197904	
		OECD106 91/414EEC, Annex II, 7.1.2 /Fraunhofer (2005 GLP)	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

項目		エトフェンプロックス		
		測定方法/試験機関		
安	加水分解性	半減期: 1年以上 (25°C、pH5、7、9)		
		OECD111 /化学分析コンサルタント (1992)		
定	水中 光分 解性	緩衝液(滅菌) 自然水(滅菌)	半減期 緩衝液: 4.7 日 (東京春期換算 10.4 日) 自然水: 7.9 日 (東京春期換算 17.5 日) (25°C、17.2 W/m ² 、300~400 nm)	
			JMAFF ガイドライン、 EPA OPPTS 835.2210 /RCC (2003 GLP)	
性	対熱	25°Cから 150°Cの範囲で安定		
		OECD113 (DSC 法) /RCC (1998 GLP)		
スペクトル	UV/VIS	極大吸収波長 (nm)	モル吸光係数 (cm ⁻¹ ・mol ⁻¹ ・L)	
		中性	273.6	3.47 × 10 ³
		酸性	273.2	3.39 × 10 ³
		塩基性	273.2	3.39 × 10 ³
	その他	¹ H-NMR、 ¹³ C-NMR、IR、MS		
		OECD101(UV/VIS) Directive 79/831/EEC /RCC (1999 GLP)		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

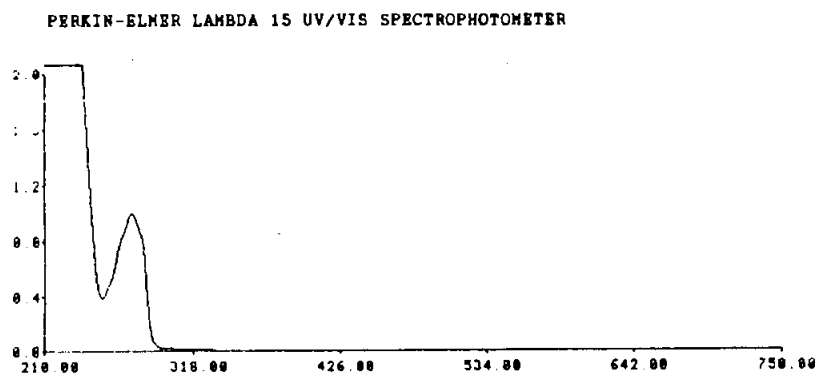
1) エトフェンプロックス

(1) UV、可視部吸収スペクトル

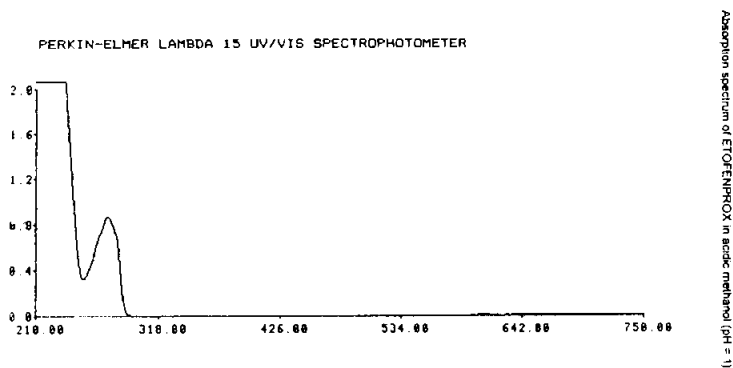
UV スペクトル:

エトフェンプロックス純品のメタノール溶液の UV スペクトルを、メタノールを対照として測定。

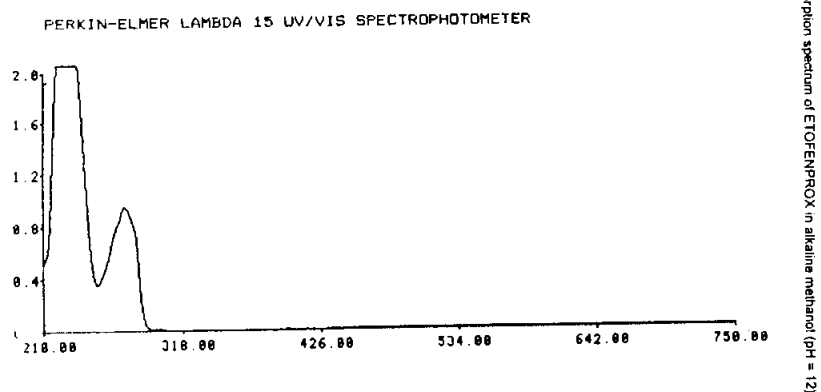
① 中性溶液中のスペクトル



② pH1 の溶液中のスペクトル



③ pH12 の溶液中のスペクトル

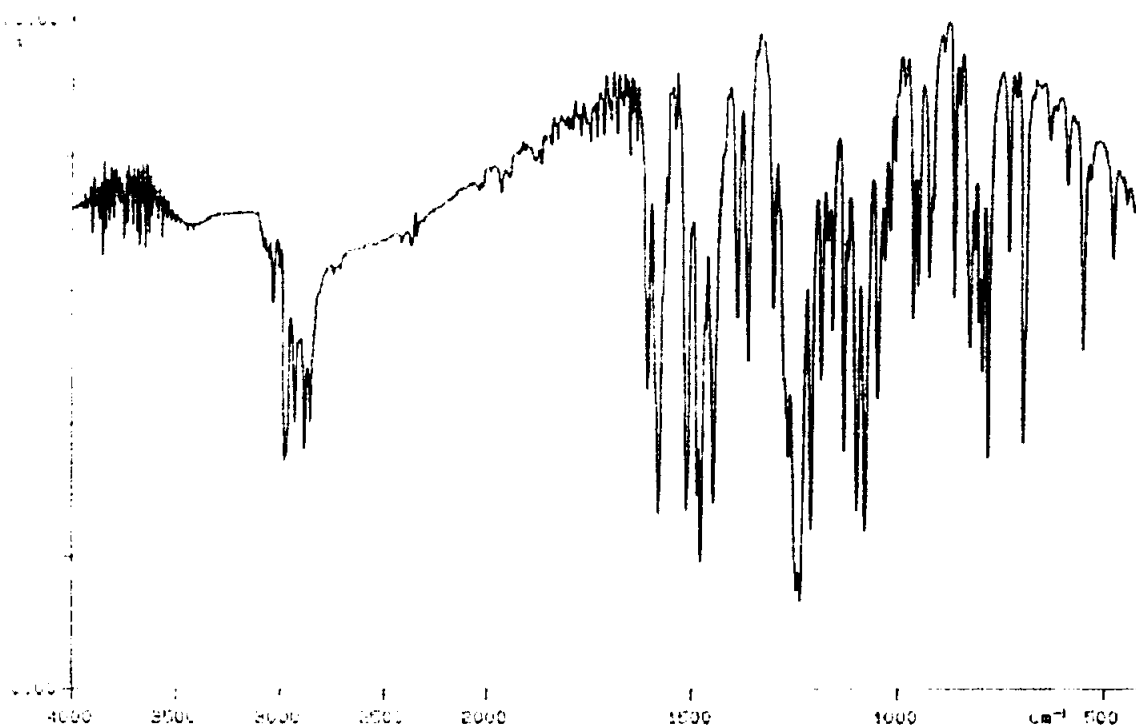


本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

メタノール溶液の pH	極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 ($\text{cm}^{-1} \cdot \text{mol}^{-1} \cdot \text{L}$)
中性	273.6	0.995	3.47×10^3
1	273.2	0.864	3.39×10^3
12	273.2	0.947	3.39×10^3

(2) 赤外吸収スペクトル

エトフェンプロックス純品の IR スペクトルを KBr法により測定($4000 \sim 400 \text{cm}^{-1}$)。

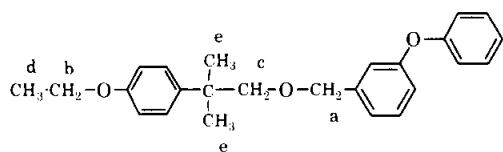
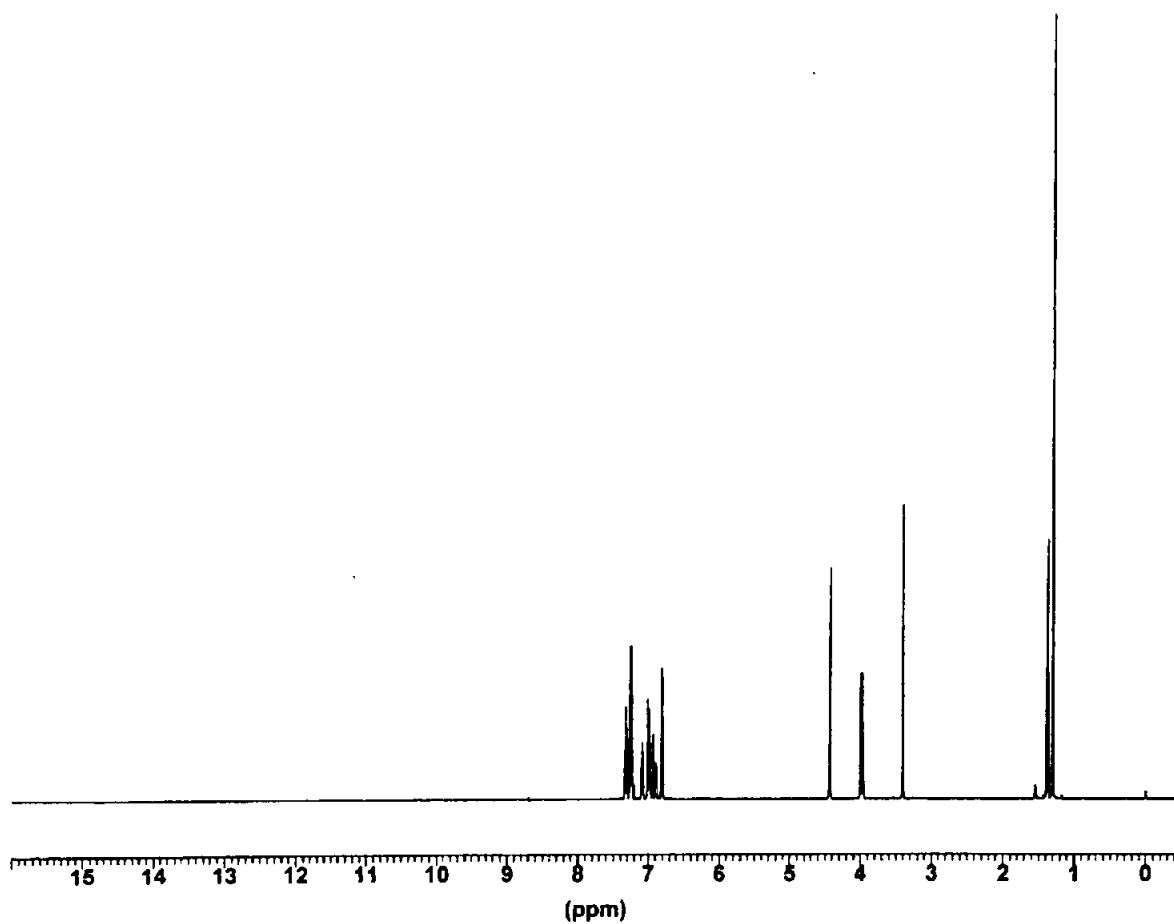


赤外吸収スペクトル(cm^{-1})	スペクトルの帰属
2980.8~2857.5	-CH ₂ -, -CH ₃
1609.5	芳香環
1582.2, 1513.6	芳香環
1479.3, 1448.6	-CH ₂ -
1390.0, 1363.6	-CH ₃
1236.2	-O-phenyl
1211.3	-C-O-

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(3) ^1H 核磁気共鳴スペクトル

エトフェンプロックスの重クロロホルム溶液の NMR スペクトルを測定。

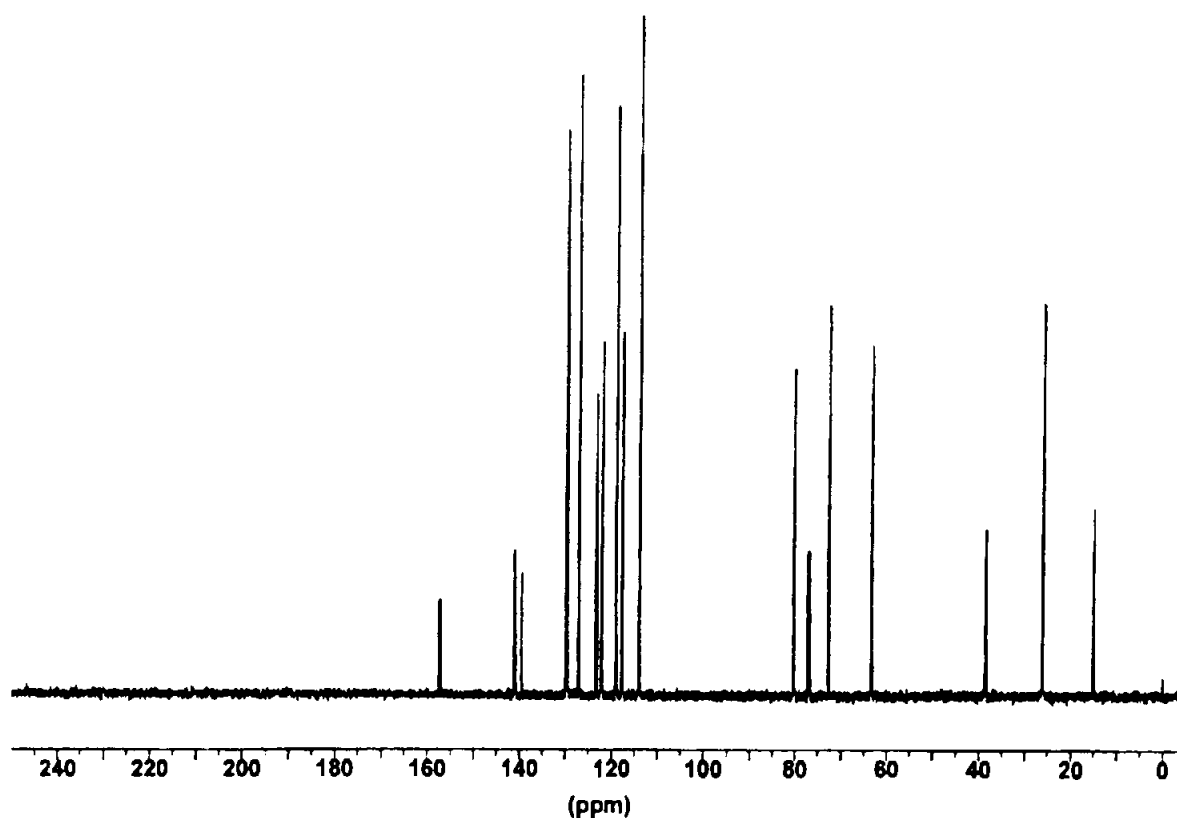


化学シフト	水素数	多重度	帰属
1.30	6	singlet	e
1.38	3	triplt	d
3.40	2	singlet	c
3.98	2	quat.	b
4.43	2	singlet	a
6.80	2	triplet	芳香環水素
6.89	1	doublet	
6.93	1	singlet	
6.97	1	doublet	
7.00	2	doublet	
7.08	1	triplet	
7.22	1	triplet	
7.25	2	doublet	
7.31	2	triplet	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(4) ^{13}C 核磁気共鳴スペクトル

エトフェンプロックスの重クロロホルム溶液の NMR スペクトルを測定。

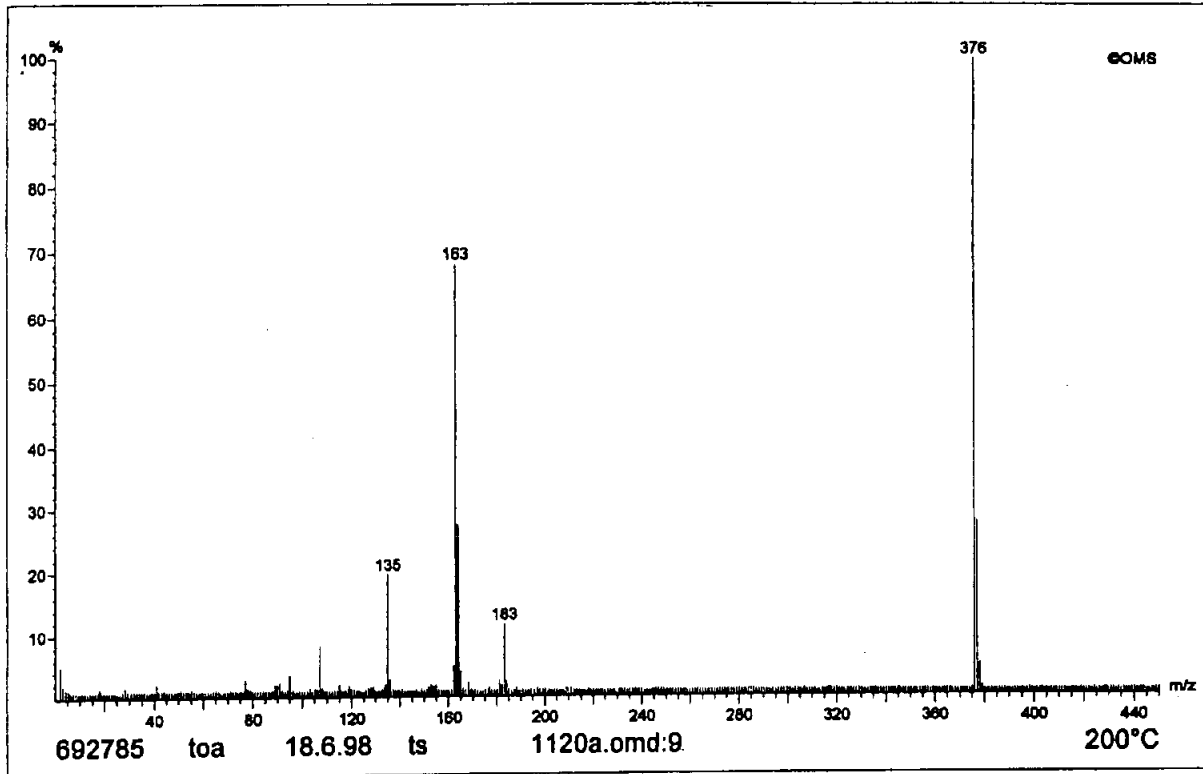


化学シフト	帰属
14.888	脂肪族炭素(-CH ₃)
26.114	脂肪族炭素(-CH ₃)
38.491	脂肪族炭素(quant)
63.298	脂肪族炭素(-CH ₂)
72.727	脂肪族炭素(-CH ₂)
80.301	脂肪族炭素(-CH ₂)
113.950, 117.544, 117.661, 118.951, 121.967, 123.211, 127.002, 129.503, 129.694, 139.462, 141.002, 157.000, 157.186, 157.346	芳香族炭素

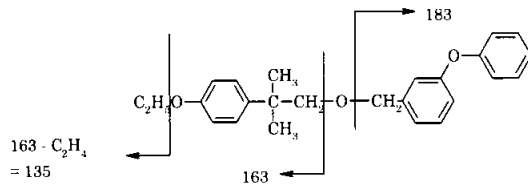
本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(5) 質量スペクトル

エトフェンプロックスの質量スペクトル(イオン化法:EI)



得られた質量スペクトルの分子イオンとフラグメントイオンについて以下の様に帰属した。



質量数 (m/z)	フラグメントイオン
376	[M] ⁺
183	左図参照
163	左図参照
135	左図参照

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3. 原体の成分組成

区分	名称		構造式	分子式	分子量	含有量	
	一般名 (略称)	化学名				規格値	通常値 (%)
有効成分	エトフェンプロックス	2-(4-エトキシフェニル)- 2-メチルプロピル= 3-フェノキシベンジル= エーテル		$C_{25}H_{28}O_3$	376.50	98.0% 以上	98.0~ 99.5
原体							
体							
混							
在							
物							

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

4. 製剤の組成

(1) 0.4%粉剤

エトフェンプロックス	0.40%
鉍物質微粉、凝集剤等	99.6%

(2) 0.5%粉剤

エトフェンプロックス	0.50%
鉍物質微粉、凝集剤等	99.5%

(3) 1.5%粒剤

エトフェンプロックス	1.5%
鉍物質微粉等	98.5%

(4) 20%水和剤

エトフェンプロックス	20.0%
鉍物質微粉、界面活性剤等	80.0%

(5) 10%乳剤

エトフェンプロックス	10.0%
水、界面活性剤等	90.0%

(6) 20%乳剤

エトフェンプロックス	20.0%
有機溶剤、界面活性剤等	80.0%

(7) 30%乳剤

エトフェンプロックス	30.0%
有機溶剤、界面活性剤等	70.0%

(8) 4%油剤

エトフェンプロックス	4.0%
有機溶剤、界面活性剤等	96.0%

(9) 20%マイクロカプセル剤

エトフェンプロックス	20.0%
水、界面活性剤等	80.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

(10) 5%液剤

エトフェンブロックス	5.0%
有機溶剤、界面活性剤等	95.0%

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

III. 生物活性

1. 活性の範囲

エトフェンプロックスは水稻、果樹、野菜、とうもろこし、だいず、茶、樹木、花卉などの重要害虫である鱗翅目、半翅目、甲虫目、双翅目、アザミウマ目、膜翅目の各種害虫に対し強い殺虫力を有するスペクトラムの広い殺虫剤である。

エトフェンプロックス乳剤(20%)及び水和剤(20%)は 1000~2000 倍の希釈濃度で鱗翅目のコナガ、ハスモンヨトウ、アワヨトウ、モンシロチョウ、イネツトムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、チャノホソガ、キンモンホソガ、シロイチモンジマダラメイガ、チャドクガ、半翅目のツマグロヨコバイ、ウンカ類、ミドリヒメヨコバイ、ダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ、オンシツコナジラミ、タバココナジラミ、甲虫目のイネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、アザミウマ目のチャノキイロアザミウマ、双翅目のタマネギバエ等に対して高い殺虫効果を示す。

また、エトフェンプロックス粉剤(0.5%)及び粒剤(1.5%)はツマグロヨコバイ、ウンカ類、イネミズゾウムシ等に高い活性を示す。以下にエトフェンプロックスの各種主要害虫に対する LD₅₀ 値(または LC₅₀ 値)を示す。

目	害虫名	ステージ	処理方法	LD ₅₀ または LC ₅₀
鱗翅目	ハスモンヨトウ	幼虫	局所施用	0.15 µg/g
	アワヨトウ	〃	〃	0.23 µg/g
	ニカメイチュウ	〃	〃	6.8 µg/g
	チャドクガ	〃	虫体浸漬	< 1 ppm
	コナガ	〃	虫体散布	5.2 ppm
	アオムシ	〃	葉片浸漬	< 1 ppm
半翅目	ツマグロヨコバイ	成虫	局所施用	0.37 µg/g
	トビイロウンカ	〃	〃	1.95 µg/g
	ヒメトビウンカ	〃	〃	0.50 µg/g
	ダイコンアブラムシ	成、若虫	散布	21.0 ppm
	モモアカアブラムシ	〃	〃	< 2.5 ppm
	オンシツコナジラミ	幼虫	〃	若令 6.5 ppm 老令 31.0 ppm
甲虫目	イネミズゾウムシ	成虫	局所施用	0.0075 µg/頭
	〃	〃	虫体浸漬	0.012 ppm
双翅目	タマネギバエ	幼虫	作物片浸漬	< 1.0 ppm

2. 作用機構

エトフェンプロックスをチャバネゴキブリ成虫一頭あたりに 1 mg を局所施用すると興奮気味に行動し、処理後 30 分頃からノックダウンが始まる。処理後 60 分以内に供試虫の全てがノックダウンし、脚を激しく動かし、24 時間以内に全ての個体は死亡する。

エトフェンプロックスは神経機能を阻害する化合物であり、DDT やピレスロイドと同様に神経軸索を主な作用点としている。

ワモンゴキブリ成虫より胸部第一から腹部第六及び一方の尾毛を備えた中枢神経索を摘出し、

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

エトフェンプロックスを含む生理食塩水に浸した後、腹部第一及び第二神経節を刺激用電極上に置き、方形波パルスを加え、それに対する神経節の応答を、腹部第五及び第六神経節間に配置した記録計により神経の興奮状態を観察すると、エトフェンプロックスは 3.7×10^{-8} Mで反復興奮を誘起する。また、高濃度では興奮の伝導遮断効果も示す(外部電極法)。

また、ザリガニの巨大神経索を摘出し、刺激用及び記録用電極を挿入し、エトフェンプロックスを含む生理食塩水で還流しながら、方形波パルスを加えると陰性後電位の増大が認められる(内部電極法)。

さらに、ザリガニ中枢神経にエトフェンプロックスを処理し、ナトリウム電流の測定を行うと、エトフェンプロックスは一過性電流下降期において、その下降速度を遅らせ、さらに大きな residual current を引き起こす。この residual current はナトリウムチャンネルの選択的阻害剤であるテトロドトキシンを加えることによりブロックされることから、エトフェンプロックスは一過性電流下降期のナトリウムチャンネルに影響を与えると考えられる。なお、一過性電流の立ち上がりには影響を与えない(ショ糖隔絶膜電位固定法)。

このようにエトフェンプロックスは神経軸索におけるナトリウムチャンネルの正常な働きを阻害することによって、活動電位の発生後の静止電位にもどる過程を阻害するものと考えられる。

3. 作用特性と防除上の利点等

(1) 即効性

エトフェンプロックス粉剤(0.5%)を金網カゴに放ったツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、コブノメイガ成虫に1 kg/10a 相当散布すると、虫は速やかにノックダウンしそのまま死亡する。また、エトフェンプロックス乳剤(20%)の4000倍液をハスモンヨトウ幼虫に散布すると速やかにノックダウンし、摂食活動が停止して死亡する。この作用により、圃場においてエトフェンプロックスが散布されると速やかに茎葉から虫が落下するので、エトフェンプロックスは虫の吸汁害、摂食害の進行を止め、被害を最小限に食い止めることができる薬剤といえる。

(2) 接触毒と経口毒作用の比較

チャバネゴキブリ成虫にエトフェンプロックスを局所施用するとLD₅₀値(24時間)は0.74 mg/頭であり、経口投与すると2.0 mg/頭であった。従ってエトフェンプロックスは主として接触毒として強く作用するが、経口毒的にも十分な活性を持つ薬剤といえる。

(3) 残効性

エトフェンプロックス乳剤(20%)の2000倍液をキャベツに散布すると、ハスモンヨトウ幼虫に対し80%以上の殺虫力が15日間持続し、水稻に2000倍液を散布するとツマグロヨコバイに対し80%以上の殺虫力が12日間持続することから、エトフェンプロックスは残効性のある薬剤であるといえる。

(4) 他剤感受性低下害虫に対する効果

有機リン剤、カーバメート剤に感受性が低下したツマグロヨコバイの系統、プロパホス、アセフェ

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

ート、ランネートに感受性が低下したコナガの系統に対し、エトフェンプロックスの殺虫効果は高く、感受性系統とほぼ同じ LD₅₀ 値あるいは LC₅₀ 値が得られることから、エトフェンプロックスはこれらの剤との交差抵抗性のないことが示唆される。

(5) 他剤との混用

エトフェンプロックス乳剤はアルカリに対して安定で、有機あるいは無機銅剤と混合し使用しても活性の低下はなく、逆に活性の向上が認められる場合もあり、果樹及び野菜用に安心して使える薬剤であるといえる。

(6) 耐雨性

エトフェンプロックス乳剤(20%)の 4000 倍液を大豆茎葉に散布し、24 時間後に耐雨(20 mm/hr)があっても、ハスモンヨトウ幼虫に対する殺虫効果は無降雨条件下に比較し、やや低下した程度であり、耐雨性を充分備えた薬剤であるといえる。

(7) 作物に対する薬害

乳剤(20%)、水和剤(20%)、を実用濃度の 2 倍の濃度で水稻、果樹、野菜に散布し観察したところ、薬害はなく、また、花卉、花木等への散布においても薬害が認められないことから、安心して使用できる薬剤といえる。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

IV. 適用及び使用上の注意事項

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

トレボン粉剤 DL (0.50%粉剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	—	イネツトムシ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		カメムシ類 イネミズゾウムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ アザミウマ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ	3～ 4kg/10a				
		イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ	3kg/10a				
小麦	—	ヒメトビウンカ アブラムシ類	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
すいか		ハスモンヨトウ		収穫3日前まで	3回以内		3回以内
きゅうり		ウリハムシ	収穫前日まで				
はくさい		アオムシ	3～ 4kg/10a	収穫7日前まで			
だいこん			収穫21日前まで				
豆類 (種実)		ハスモンヨトウ マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ アブラムシ類 アズキノメイガ	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内		2回以内
えだまめ	ハスモンヨトウ	3～ 4kg/10a					
	マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ	4kg/10a					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
やまのいも	—	シロイチモジヨトウ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
さといも		ハスモンヨトウ					
かんしょ		ハスモンヨトウ ナカジロシタバ		4回以内			
とうもろこし		アワノメイガ					
キャベツ		ハスモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ	3～ 4kg/10a	収穫3日前まで	3回以内		3回以内
れんこん		マメコガネ	4kg/10a	収穫14日前まで			

トレボン L 粉剤 DL (0.40%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内

トレボン粒剤 (1.5%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ イネゾウムシ イネヒメハモグリバエ イナゴ類 ウンカ類 ツマグゴヨコバイ	2～3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
	ニカメイチュウ (第一世代)	3kg/10a				
さとうきび	ハリガネムシ類	9kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	1回
れんこん	イネネクイハムシ	3kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
いぐさ	イグサシンムシガ	2kg/10a	—			
畑わさび	ナトビハムシ	3kg/10a	植付時	1回	植溝土壌混和	2回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、 散布は1回 以内)
わさび			収穫14日前まで		散布	
			畑育苗期 ただし、 植付時		植溝土壌混和	
			畑育苗期		散布	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

アークリン水和剤 (20%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメムシ類	2000 倍	収穫 21 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんきつ	チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ		1000~2000 倍			
りんご	モモシンクイガ キンモンホソガ	2000 倍				
	なし	シンクイムシ類 ナシチビガ アブラムシ類	1000~2000 倍			
もも	ハマキムシ類	2000 倍				
	モモハモグリガ	1000 倍				
くり	シンクイムシ類	2000 倍				
	クリシギゾウムシ	1000~2000 倍				
かき	カキノヘタムシガ チャミノガ	1000~2000 倍	収穫 30 日 前まで			
	ハマキムシ類 カメムシ類 チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ	1000 倍				

マネーヅトレボンフロアブル (10.0%エトフェンプロックス、10.0%イミベンコナゾール水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロックス を含む農薬の 総使用回数	イミベンコナゾール を含む農薬の 総使用回数
だいず	紫斑病 アブラムシ類 カメムシ類 マメシンクイガ	1000 倍	150~300L /10a	収穫 30 日前ま で	2 回以内	散布	2 回以内	2 回以内
		8 倍	800mL/10a			無人ヘリ コプター による 散布		

ラブサイドトレボンフロアブル (10.0%エトフェンプロックス、20.0%フサライド水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロックス を含む農薬の 総使用回数	フサライド を含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 ヒトヒウンカ カメムシ類	1000 倍	—	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	3 回以内
		300 倍	25 ㍉/10a					
		8 倍	0.8 ㍉/10a			無人ヘリコプター による散布		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボンスターフロアブル (7.0%エトフェンプロックス、3.0%ジノテフラン水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲	カメシ類 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	1000 倍	60～ 150L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	4 回以内 (育苗箱への 処理及び側 条施用は合 計 1 回以内、 本田での散 布、空中散 布、無人ヘリ コプターによる 散布は合計 3 回以内)
	カメシ類	300 倍	25L/10a					
	カメシ類 ウンカ類 コブノメイガ ツマグロヨコバイ	8 倍	0.8L/10a			2 回以内		
だいず	カメシ類							

ビームエイトトレボンゾル (6.2%エトフェンプロックス、8.0%トリシクラゾール水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ウンカ類	20 倍	3L/10a	収穫 14 日 前 まで	3回以内	空中散布	3 回以内	4 回以内 (育苗箱への 処理は 1 回以内、 本田では 3 回以内)
	ツマグロヨコバイ カメシ類	5 倍	800mL/10a					
	いもち類 ウンカ類 カメシ類	原液	150mL/10a			空中散布		
	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	120～ 180 倍	25L/10a			散布		
		650 倍	100～ 150L/10a					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トップジントレボンフロアブル (5.0%エトフェンプロックス、20.0%チオファネートメチル水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 墨黒穂病 カメシ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ	500倍	60~200L /10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内 (種子への処理は1回以内)
	ウンカ類	4倍	0.8L/10a			無人ヘリコプターによる散布		
	いもち病 紋枯病 カメシ類					空中散布		

サンヨール・トレボンスプレー (0.020%エトフェンプロックス・0.040%DBEDC 水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	DBEDCを含む農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 べと病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	4回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 アブラムシ類 コナジラミ類			2回以内		2回以内	4回以内
きく	うどんこ病 白さび病 アブラムシ類 ハダニ類		発生初期	6回以内		6回以内	8回以内
ばら	うどんこ病 黒星病 アブラムシ類 チュウレンジハバチ ハダニ類						
花き類・ 観葉植物 (ばら、きくを 除く)	うどんこ病						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

サニーフィールド乳剤 (30%乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
芝	スジキリヨトウ シバツトガ、タマナヤガ	1000～2000 倍	発生初期	3 回以内	1m ² 当り 0.3L 散布	3 回以内
	ケラ				1m ² 当り 1L 散布	
	シバオサゾウムシ(成虫)				1m ² 当り 3L 散布	
	コガネムシ類(幼虫)				1m ² 当り 0.5～1L 土壌注入	
さくら プラタナス	アメリカシロヒトリ	3000 倍		6 回以内	散布	6 回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボン乳剤 (20%乳剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロク スを含む農 薬の総使用 回数
稲	—	コブノメイガ	1000 倍	60～ 150L/ 10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イナゴ類	1000～ 2000 倍					
		カメムシ類 イネミズゾウムシ	2000 倍					
		ウンカ類	300～ 600 倍	25L /10a				
		ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	300 倍					
		カメムシ類	600 倍					
キャベツ	—	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～ 2000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内
はくさい					収穫 7 日 前まで			
だいこん					収穫 21 日 前まで			
ブロッコリー*					収穫前日 まで			
ねぎ		シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫 21 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
レタス		アブラムシ類			収穫 14 日 前まで			
すいか		アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ			収穫 3 日前 まで			
		メロン			アブラムシ類 コナジラミ類			
かぼちゃ		コナジラミ類	1000～ 2000 倍	1000 倍	100～ 300L/ 10a	3 回以内	散布	3 回以内
なす		アブラムシ類						
ピーマン	アブラムシ類 カメムシ類							
オクラ	コナジラミ類 アブラムシ類							
きゅうり	アブラムシ類 ウリノメイガ カメムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類	1000 倍	1000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内

*現在登録変更申請中(申請日:2013年9月10日)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロ ックスを含む農 薬の総使用 回数
トマト	—	コナジラミ類	1000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
さやえんどう 実えんどう		シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ						
さやいんげん		ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ						
えだまめ		マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ						
		ハスモンヨトウ			1000～ 2000 倍			
未成熟 ささげ		アブラムシ類	1000 倍	200～ 700L/ 10a	収穫前日 まで	3 回以内		3 回以内
うど					根株 養成期 但し、 収穫 45 日 前まで			
					収穫 14 日前まで			
モロヘイヤ		アザミウマ類	1000～ 2000 倍	60～ 150L/ 10a	収穫 14 日 前まで	2 回以内		2 回以内
かんきつ		コアオハナムグリ ケシキスイ類						
		ミカンハモグリガ						
		チャノキイロアザミウマ						
小麦		ヒメトビウンカ アブラムシ類	2000 倍	2 回以内	2 回以内	2 回以内		
とうもろこし		アワノメイガ アワヨトウ	1000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫 7 日 前まで	4 回以内		4 回以内
きび*		アカスジカスミカメ			収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
ほうきぎ*	ホウキギツツミノガ	収穫 30 日 前まで			2 回以内	2 回以内		
ばれいしょ	アブラムシ類	3 回以内			3 回以内	3 回以内	3 回以内	
かんしょ	ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ							
	やまのいも やまのいも (むかご)							アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ

*現在登録変更申請中(申請日:2013年9月10日)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロク スを含む農 薬の総使用 回数				
さといも	—	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫 14 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内				
さといも (葉柄)					収穫 7 日前 まで							
豆類 (種実、 ただし、 だいず、 あずきを 除く)		マメシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ										
だいず		マメシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ										
あずき		マメシクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ ノメイガ類										
しょうが		ハスモンヨトウ			収穫 7 日前 まで				3 回以内	3 回以内		
葉しょうが					収穫 14 日 前まで							
ふき					コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ							
せり (水耕栽培)		ガラス室等の 施設			アブラムシ類				100～ 150L /10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	2 回以内
せり みずいも		水田			オキナワイナゴモドキ							
あしたば	—	アブラムシ類	2000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	3 回以内					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロク スを含む農 薬の総使用 回数			
みつば	—	アブラムシ類	1000 倍	100～ 300L/ 10a	収穫 21 日前まで 但し、伏 せ込み栽 培は伏せ 込み前 まで	2 回以内	散布	2 回以内			
てんさい		ヨトウムシ	1000～ 2000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内			
茶		チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～ 400L/ 10a	摘採 21 日 前まで	2 回以内		2 回以内			
たばこ		タバコガ ヨトウムシ			25～ 180L/ 10a				—		
		アブラムシ類	1000～ 2000 倍	—	—	—					
マンゴー		チャノキイロアザミウマ	1000 倍	200～ 700L/ 10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内			
樹木類 (つつじ類、 ポインセチア、 ソテツを除く)		ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～ 700L/ 10a	幼虫 発生期	6 回以内		6 回以内			
		オビカレハ	2000 倍						—		
つつじ類		ツツジグンバイ	2000 倍						—		
		ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍						幼虫 発生期		
		オビカレハ	2000 倍						—		
ポインセチア		コナジラミ類	1000 倍						—		
		ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍						幼虫 発生期		
		オビカレハ	2000 倍								
ソテツ		クロマダラソテツシジミ	2000～ 4000 倍								
		ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍						100～ 300L/ 10a	—	—
宿根かすみそ う		シロイチモジヨトウ	1000 倍								
		ヨトウムシ	2000 倍								
りんどう		ヒラズハナアザミウマ									
きく カーネーション	アブラムシ類	2000 倍	発生 初期								
ゆり			—								
トルコギキョウ	ハスモンヨトウ	1000 倍	—								

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	エトフェンプロク スを含む農 薬の総使用 回数
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オキ、ス スキ、セイタカア ワダチソウ等 の多年生 雑草が優 占している 休耕田	カメムシ類	2000 倍	60～ 150L/ 10a	—	3 回以内	散布	3 回以内

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボンEW (10%乳剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロックス を含む 農薬の 総使用回数
稲		ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 イネドロオイムシ カメムシ類 イネミズゾウムシ コブノメイガ	1000 倍	60~150L/ 10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内		3 回以内
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ	300 倍	25L/10a				
小麦	—	アブラムシ類	1000 倍	60~150L/ 10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
やまのいも					収穫 7 日前 まで	3 回以内		3 回以内
ばれいしょ								
だいず					収穫 前日 まで	3 回以内		3 回以内
えだまめ		アブラムシ類	1000 倍	100~300L/ 10a			収穫 3 日前 まで	
さやえんどう					コナジラミ類 シロイチモジヨトウ	2 回以内		2 回以内
実えんどう		コナジラミ類 アブラムシ類	1000 倍	100~300L/ 10a			収穫 前日 まで	
きゅうり					アブラムシ類	1000 倍		100~300L/ 10a
すいか		コナジラミ類 アブラムシ類	1000 倍	100~300L/ 10a			収穫 前日 まで	
メロン					アブラムシ類 ヨトウムシ アオムシ	1000 倍		100~300L/ 10a
トマト		シロイチモジヨトウ	1000 倍	100~300L/ 10a			収穫 7 日前 まで	
なす					アブラムシ類	1000 倍		100~300L/ 10a
キャベツ		アブラムシ類	1000 倍	100~300L/ 10a			収穫 14 日前 まで	
はくさい					イモコガ	1000 倍		100~300L/ 10a
だいこん		アブラムシ類	1000 倍	100~300L/ 10a			根株 養成期 但し、 収穫 45 日前まで	
ねぎ					アブラムシ類	1000 倍		100~300L/ 10a
レタス		アブラムシ類	1000 倍	100~300L/ 10a			根株 養成期 但し、 収穫 45 日前まで	
てんさい					アブラムシ類	1000 倍		100~300L/ 10a
エンサイ		アブラムシ類	1000 倍	100~300L/ 10a			根株 養成期 但し、 収穫 45 日前まで	
うど					アブラムシ類	1000 倍		100~300L/ 10a

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボンEW (10%乳剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	エトフェンプロックス を含む農薬の 総使用回数
きく	—	アブラムシ類	1000 倍	100～ 300L/ 10a	—	6 回以内	散布	6 回以内
宿根かすみ そう		シロイチモジヨトウ						
たदैあい		アブラムシ類 ハスモンヨトウ						
樹木類 (つつじ類、 いぬまきを 除く)		ケムシ類	2000 倍	100～ 700L/ 10a	発生初期			
つつじ類		ツツジゲンバイ モンアシブトゾウムシ	1000 倍					
いぬまき		ケブカトラカミキリ ケムシ類	2000 倍					
水田作物、 畑作物 (休耕田)		ヨシ、オギ、ス キ、セイタカワ ダチソウ等の 多年生雑草 が優占して いる休耕田	カメムシ類	1000 倍	60～ 150L/ 10a	—		

トレボンエアー (10%乳剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを 含む農薬の 総使用回数
稲	コブノメイガ イナゴ類 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	30 倍	3L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	空中散布	3 回以内
	イナゴ類 ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	8 倍	0.8L/10a			無人ヘリコ プターに よる散布	
	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イナゴ類						
小麦	ヒメトビウンカ	8 倍	1.6L/10a	収穫 14 日 前まで	2 回以内	無人ヘリコ プターに よる散布	2 回以内
だいず	ハスモンヨトウ カメムシ類			収穫 7 日 前まで			
あずき	フキノメイガ			3 回以内	3.2L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内
しょうが	アワノメイガ						
やまのいも	ヤマノイモコガ アブラムシ類						

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボンサーフ (4.0%油剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	200～ 300mL/10a	移植後 20 日 以降(但し 5 葉期以後) 収穫 21 日前 まで	3 回 以内	原液を田面水に滴下 又は 入水時水口に滴下	3 回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ第 1 世代	500mL/10a				
	イナゴ類	300～ 500mL/10a				
いぐさ	イグサシンムシガ	300mL/10a	—		原液を田面水に滴下	

なげこみトレボン (4.0%油剤)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	水溶性容器 4～6 個 (200～ 300mL)/10a	5 葉期以降 収穫 21 日前 まで	3 回以内	本田に 水溶性容器 のまま 投げ入れる	3 回以内
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ第 1 世代	水溶性容器 10 個 (500mL)/10a				
	イナゴ類	水溶性容器 6～10 個 (300～ 500mL)/10a				
いぐさ	イグサシンムシガ	水溶性容器 6 個 (300mL)/10a	—			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボン MC (20%マイクロカプセル剤)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	—	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1000～ 2000 倍	60～ 150L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
		カメムシ類 イネドロオイムシ	2000 倍					
		イナゴ類 コブノメイガ	1000 倍					
		ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	600 倍	25L/10a				
ばれいしょ		アブラムシ類	1000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内		3 回以内
だいず えだまめ		カメムシ類 ハスモンヨトウ マメシンクイガ			収穫 14 日 前まで			
きゅうり		アブラムシ類 ウリノメイガ			収穫 前日まで	3 回以内		
なす		アブラムシ類			収穫 3 日 前まで			
キャベツ		ハイマダラノメイガ アオムシ ヨトウムシ			収穫 7 日 前まで			
はくさい		アブラムシ類			収穫 21 日 前まで			
だいこん		ヨトウムシ			収穫 14 日 前まで			
てんさい		ツツジグンバイ						
つつじ類								
樹木類 (つつじ類、 いぬまきを 除く)	ケムシ類	2000～ 4000 倍	100～ 700L/10a		6 回以内	6 回以内		
いぬまき	ケブカトラカミキリ							
水田作物、 畑作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の 多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	2000 倍	60～ 150L/10a		3 回以内	3 回以内	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボンスカイ MC (20%マイクロカプセル剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 カメムシ類 ツマグロヨコバイ	60 倍	3L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	空中散布	3 回以内
	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類	16 倍	0.8L/10a				
	カメムシ類 ヒメビウンカ						
小麦	アブラムシ類					無人ヘリコ プターによ る散布	2 回以内
だいず	ハスモンヨトウ カメムシ類	8~16 倍		収穫 14 日前まで	2 回以内		
	マメシンクイガ	8 倍					
てんさい	ヨトウガ	16 倍	1.6L/10a		3 回以内		3 回以内

サニーフィールド MC (20%マイクロカプセル剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
芝	スジキリヨトウ シバツトガ	2000 倍	0.3L/m ²		3 回以内		3 回以内
	ケラ		1L/m ²				
樹木類 (つつじ類 を除く)	ケムシ類	2000~ 4000 倍	100~ 700L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
つつじ類	ツツジゲンバイ	1000 倍					

ベニカエース液剤(5.0%エトフェンプロックス液剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	総使用回数
きく ばら パンジー	アブラムシ類	250~ 500 倍	-	6 回以内	散布	6 回以内
つばき類	チャドクガ					
サクラ	モンクロシャチホコ					
まさき	ミノウスバ					
つつじ類	ツツジゲンバイ	250 倍				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

トレボン粉剤 DL (0.50%粉剤)

- (1) 本剤は飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を一目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (5) イネミズゾウムシ成虫に使用する場合、移動範囲が広いのでなるべく広域でいっせいに防除し、畦畔などの周辺雑草にも散布すること。

トレボンL粉剤 DL (0.40%粉剤)

- (1) 本剤は飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を一目盛程度しぼって散布すること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

トレボン粒剤 (1.5%粒剤)

- (1) 本剤を本田で使用する場合、湛水状態(湛水深 3~5cm)でまきむらのないよう均一に散布し、散布後少なくとも3~4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (2) 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落とすこと。
- (3) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (4) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

サニーフィールド乳剤 (30%乳剤)

- (1) コガネムシ類(幼虫)に対して土壌注入処理をする場合には農薬の高圧噴射できるインジェクターを使用すること。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (4) 本剤は自動車などに散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。

トレボン乳剤 (20%乳剤)

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (2) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。
- (3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (4) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
- (5) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (6) きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用を避けること。
- (7) 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- (8) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 300~600 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (9) 本剤は自動車等の塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

トレボン EW (10%乳剤)

- (1) 使用前によく振ってから使用すること。
- (2) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
- (3) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (4) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (5) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (6) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

トレボンエアー (10%乳剤)

- (1) 散布は各散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
- (2) 少量散布の際には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
- (3) 無人ヘリコプターによる散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- (4) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (5) 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (6) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。

なお、実施にあたっては、事前に蚕業関係者と安全対策について十分協議すること。
- (7) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (9) 作業終了後は次の事項を守ること。
 - ①使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
 - ②機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

アークリン水和剤 (20%水和剤)

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (2) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (3) ミツバチ、マメコバチ等に対して影響があるので、以下のことに注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- ①ミツバチ、マメコバチ等の巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
- ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ、マメコバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、危害防止に努めること。

ラブサイドトレボンフロアブル (10.0%エトフェンプロックス、20.0%フサライド水和剤)

- (1) 本剤は長期間貯蔵しておくことと分離するので、使用の際はビンをよく振って均一な状態にもどしてから所定量を取り出すこと。なお、希釈する場合は、所定量の水に加えてから十分攪拌すること。
- (2) 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけすみやかに散布すること。
- (3) 本剤を本田の水稲に対して300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (4) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡する等、周辺への飛散に注意し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (6) 本剤を無人ヘリコプターで散布する場合は次の注意を守ること。
 - ① 散布は各使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ② 微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
 - ③ 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ④ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
 - ⑤ 薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布区域の諸物件に十分留意すること。
 - ⑥ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
 - ⑦ 作業終了後、機体散布装置は十分に洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は適切に処理すること。また、使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。

マネージトレボンフロアブル (10%エトフェンプロックス・10%イミベンコナゾール水和剤)

- (1) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3) 散布器具、容器等の洗浄水は河川等に流さず、容器は圃場などに放置せず適切に処理すること。
- (4) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - ①散布は各散布機種の使用基準に従って実施すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- ② 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- ③ 散布中薬液の漏れのないように、機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- ④ 散布薬液の飛散によって他の動植物及び諸物件に影響を与えないよう、散布地域の選定に注意すること。

トレボンスターフロアブル (7.0%エトフェンプロックス・3.0%ジノテフラン水和剤)

- (1) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は、次の注意を守ること。
 - ① 散布は各散布機種の散布基準に従って実施すること。
 - ② 少量散布(8倍液)の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
 - ③ 無人ヘリコプターによる散布にあつては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ④ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ⑤ 散布薬液の飛散によって動植物及び自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (2) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- (3) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。
なお、実施にあつては、事前に蚕業関係者と安全対策について十分協議すること。
- (4) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ② 養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

ビームエイトトレボンゾル (6.2%エトフェンプロックス、8.0% トリシクラゾール水和剤)

- (1) 本剤は長時間貯蔵しておくことと分離するので、使用の際は容器をよく振って均一な状態にもどしてから所定量を取出すこと。なお、希釈する場合は、所定量の水に加えてから十分攪拌すること。
- (2) 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ① 各散布機種の散布基準に従って実施すること。
 - ② 微量散布及び少量散布の場合は、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
 - ③ 無人ヘリコプターによる散布にあつては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - ④ 散布中、薬液の漏れないように機体の散布用配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ⑤ 散布薬液の飛散によって動植物特に野菜類の幼苗、なし(二十世紀、幸水、新水等)等の農作物の危被害や自動車の塗装等に被害を与えるおそれがあるなど、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- ⑥蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。なお、実施にあたっては、事前に蚕業関係者と安全対策について十分協議すること。
- ⑦ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - a.ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - b.養蜂が行なわれている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
- ⑧水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- ⑨作業終了後は次の項目を守ること。
 - a.使用後の空の容器は放置せず安全な場所に廃棄すること。
 - b.機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (3) 野菜類の幼苗及びなし(二十世紀、幸水、新水等)には薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように注意して散布すること。
- (4) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用をさけること。
 - ②養蜂が行なわれている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
 - ③散布当日及び1日後はミツバチを移動させるか巣門を閉じること。
- (6) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数120～180倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。

トップジントレボンフロアブル (5.0%エトフェンプロックス、20.0%チオファネートメチル水和剤)

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので、絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (2) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。
 - ②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。
- (3) 本剤を空中散布及び無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - ①各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ②少量散布(4倍液)の場合は、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
 - ③無人ヘリコプターによる散布にあたっては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ④散布中、薬液の漏れの無いように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ⑤散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
 - ⑥水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
 - ⑦作業終了後は次の項目を守ること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

a 使用後の空の容器は放置せず安全な場所に廃棄すること。

b 機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄液は安全な場所に処理すること。

(4) 本剤を散布した稲わらは家畜の飼料に使用しないこと。

サンヨール・トレボンスプレー (0.020%エトフェンブロックス・0.040%DBEDC 水和剤)

(1) ハウス又は露地栽培で高温時の場合には葉の変色等の薬害を生ずるおそれがあるので、その場合は使用をさけること。

(2) 多湿下の施設内で使用する場合は、散布した薬液が速く乾燥するように通気性をよくして散布すること。

トレボンサーフ (4.0%油剤)

1) 薬効に関する事項

(1) 田面水に滴下する場合、湛水深を 3～5 cm に保ち、10 アール当たり 20 ヶ所程度にわけて所定量の原液を田面水に注ぎ込むこと。

(2) 入水時に水口に滴下する場合、本剤を水口付近に徐々に滴下し、(10 アールあたり 1～2 ヶ所) 流入水とともに水田全面に拡散させること。処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深 3～5 cm)に達した時に必ず入水を止め田面水があふれ出ないように注意すること。

(3) 本剤処理後、少なくとも 3～4 日間は通常の湛水深を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。

(4) 稲が繁茂し、株間が狭くなった場合には本剤が十分拡散しない場合があるので注意すること。

2) 薬害に関する事項

(1) 強風下では、薬液が風下に吹き寄せられ薬害を生ずることがあるので使用を避けること。

(2) 稲、いぐさが繁茂し、株間が狭くなった場合には本剤が十分拡散しない場合があるので注意すること。

(3) 薬液が、稲またはいぐさの茎葉に直接付着すると薬害を生ずるので、作物体にかからないよう田面水に滴下すること。

(4) 藻、ウキクサ等が多数浮遊している水田等及び稲、いぐさが活着不良または軟弱徒長の場合には薬害を生ずることがあるので、使用を避けること。

3) 作業衣などは桑用と必ず区別すること。

4) 本剤が自動車などの塗装面にかかると変色するおそれがあるので、かからないよう注意すること。

なげこみトレボン (4.0%油剤)

(1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使い切ること。

(2) 水溶性容器を使用しているのでぬれた手で作業しないこと。

(3) 薬効に関する事項

① 本剤の使用に際しては、所定個数を水溶性容器のまま圃場全体に均等に投げ込むこと。

② 本剤は湛水状態で、土壌にめり込ませないよう畦畔から軽く投げ入れること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

③本剤処理後、少なくとも 3～4 日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らせたりしないように注意し、また、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないこと。

(4) 薬害に関する事項

①強風下では、薬液が風下に吹き寄せられ薬害を生ずることがあるので、使用を避けること。

②内容液が、稲、いぐさの茎葉に直接付着すると薬害を生ずるので、水溶性容器のまま田水面に投げ込むこと。

③藻、ウキクサ等が多数浮遊している水田等及び稲、いぐさが活着不良または軟弱徒長の場合には薬害を生ずることがあるので、使用を避けること。

トレボン MC (20%マイクロカプセル剤)

(1) 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数 600 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布置置を使用すること。

(2) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。

(3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。

(4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。

②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

サニーフィールド MC (20%マイクロカプセル剤)

(1) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。

(2) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。

(3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。

②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病虫害防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

トレボンスカイ MC (20%マイクロカプセル剤)

(1) 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。

(2) 少量散布の際には、微量散布置置以外の散布器具は使用しないこと。

(3) 使用前によく振ってから使用すること。

(4) 無人ヘリコプターによる散布にあたっては、散布機種に適合した散布置置を使用すること。

(5) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管その他散布置置の十分な点検を行うこと。

(6) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。

(7) 散布薬液の飛散によって他の動植物及び自動車やカラートタンの塗料等へ影響を与えないよ

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

う、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。

- (8) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。

なお、実施にあたっては、事前に蚕業関係者と安全対策について十分協議すること。

- (9) ミツバチ、マメコバチ等に対して影響があるので、以下のことに注意すること。

①ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散する恐れがある場合には使用しないこと。

②養蜂が行われている地区や受粉等を目的としてミツバチ等を放飼している地区で使用する場合は、関係機関(都道府県の畜産部局や病害虫防除所等)への連絡を徹底し、ミツバチ等の危害防止に努めること。

- (10) 作業終了後は次の事項を守ること。

① 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。

② 機体散布装置は十分洗浄し薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

- (11) 散布液が水槽、池、河川などに入らないように注意すること。

ベニカエース液剤 (5.0%エトフェンプロックス液剤)

- (1) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

- (2) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。

①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。

②養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

トレボン粉剤 DL (0.50%粉剤)、トレボン L 粉剤 DL (0.40%粉剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

トレボン粒剤 (1.5%粒剤)

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

サニーフィールド乳剤 (30%乳剤)

- (1) 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼす恐れがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないように注意して使用すること。
養殖池周辺での使用は避けること。
- (2) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

トレボン乳剤 (20%乳剤)、トレボンEW (10%乳剤)、トレボン水和剤 (20%水和剤)、アークリン水和剤 (20%水和剤)、トレボン MC (20%マイクロカプセル剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こす恐れがあるので、十分注意すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

サニーフィールドMC (20%マイクロカプセル剤)、ベニカエース液剤 (5%液剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

ラブサイドトレボンフロアブル (10.0%エトフェンプロックス、20.0%フサライド水和剤)、トレボンスターフロアブル (7.0%エトフェンプロックス・3.0%ジノテフラン水和剤)、ビームエイトトレボンゾル (6.2%エトフェンプロックス、8.0% トリシクラゾール水和剤)、トップジントレボンフロアブル (5.0%エトフェンプロックス、20.0%チオファネートメチル水和剤)

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。
- (2) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こす恐れがあるので、十分注意すること。
- (3) 空中散布及び無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
- (4) 散布後は水管理に注意すること。
- (5) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

注:ラブサイドトレボンフロアブル、トレボンスターフロアブルの(3)は下記のとおり

- (3) 無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。

マネージトレボンフロアブル (10.0%エトフェンプロックス、10.0%イミベンコナゾール水和剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

サンヨール・トレボンスプレー (0.020%エトフェンプロックス・0.040%DBEDC 水和剤)

この登録に係る使用方法では該当がない。

トレボンエアー (10%乳剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こす恐れがあるので十分注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

- (2) 空中散布又は無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 散布後は水管理に注意すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

トレボンスカイ MC (20%マイクロカプセル剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こす恐れがあるので十分注意すること。
- (2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

トレボンサーフ (4%油剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

なげこみトレボン (4%油剤)

- (1) 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

V. 残留性及び環境中予測濃度算定関係

1. 作物残留試験

1) エトフェンプロックス

(1) 分析法の原理と操作概要

- ① 試料からアセトン抽出、ヘキサンで転溶後、必要に応じアセトニトリル分配し、フロリジル等を用いたカラムクロマトグラフィーで精製する。その後、トリメチルシリルヨードと反応させ、3-フェノキシベンジルヨードに変換し、ガスクロマトグラフィー(ECD)で定量する。又は、3-フェノキシベンジルヨードをヘキサンに転溶し、フロリジル等を用いたカラムクロマトグラフィーで精製し、ガスクロマトグラフィー(ECD)で定量する。
- ② 試料からアセトン抽出、ヘキサン等で転溶後、必要に応じアセトニトリル分配を行う。フロリジル等を用いたカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフィー(UV、MS)またはガスクロマトグラフィー(MS)で定量する。
- ③ 試料からアセトン抽出、ヘキサン転溶後、GPC クリーンアップシステム及びフロリジル等を用いたカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフィー(UV、MS)で定量する。
- ④ 試料からアセトン抽出後、多孔性けいそう土等を用いたカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフィー(UV、MS、MS/MS)で定量する。

(2) 分析対象の化合物

2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンジル=エーテル

分子式 : $C_{25}H_{28}O_3$

分子量 : 376.50

(3) 残留試験結果

以降の表に示した。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 58年度	水和剤(20%) 150倍 0.5L/箱 苗箱散布(1回) 粒剤(1.5%) 4kg/10a 水面施用(1回) 乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布(3回)	千葉農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	7	0.16	0.16			0.21	0.21		
			5	14	0.10	0.10			0.17	0.17		
			5	21	0.09	0.09			0.13	0.13		
		5	27	0.08	0.08			0.12	0.12			
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	7	0.14	0.14			0.16	0.16		
			5	14	0.11	0.10			0.16	0.16		
5	21		0.09	0.08			0.13	0.13				
5	28	0.04	0.04			0.04	0.04					
水稲 (稲わら) 58年度	水和剤(20%) 150倍 0.5L/箱 苗箱散布(1回) 粒剤(1.5%) 4kg/10a 水面施用(1回) 乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布(3回)	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			5	7	19.6	19.2			16.7	16.4		
			5	14	8.00	7.92			8.84	8.84		
			5	21	5.03	4.77			4.54	4.54		
		5	27	4.65	4.64			4.81	4.80			
		石川農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			5	7	12.0	11.8			9.46	9.42		
			5	14	8.64	8.38			5.67	5.66		
5	21		6.17	6.07			5.32	5.31				
5	28	6.16	6.08			3.56	3.52					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 59年度	粉剤 DL(0.5%) 4kg/10a 散布	千葉農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	27	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	14	0.01	0.01			0.01	0.01		
			5	19	0.01	0.01			0.01	0.01		
			5	26	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
水稲 (稲わら) 59年度	粉剤 DL(0.5%) 4kg/10a 散布	千葉農試	0	—	0.06	0.06			0.06	0.06		
			5	14	2.42	2.32			1.49	1.48		
			5	21	1.17	1.12			1.19	1.18		
			5	27	1.06	0.98			0.90	0.90		
		石川農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			5	14	2.23	2.17			2.03	2.02		
			5	19	0.87	0.86			0.89	0.88		
			5	26	1.19	1.18			1.00	1.00		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 59年度	水和剤(20%) 100倍 0.7L/箱 苗箱散布(1回) 粒剤(1.5%) 6kg/10a 水面施用(1回)	千葉農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	114	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	98	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
水稲 (稲わら) 59年度	水和剤(20%) 100倍 0.7L/箱 苗箱散布(1回) 粒剤(1.5%) 6kg/10a 水面施用(1回)	千葉農試	0	—	0.06	0.06			0.06	0.06		
			2	114	0.39	0.39			0.48	0.48		
		石川農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			2	98	0.02	0.02			0.04	0.04		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
水稲 (玄米) 61年度	乳剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布	千葉農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	14	0.30	0.30			0.31	0.30		
			5	21	0.30	0.30			0.26	0.26		
			5	28	0.06	0.06			0.04	0.04		
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	14	0.02	0.02			0.02	0.02		
			5	21	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			5	28	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
水稲 (稲わら) 61年度	乳剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02			0.05	0.04		
			5	14	3.14	3.06			4.08	4.04		
			5	21	5.34	5.23			1.56	1.55		
			5	28	2.45	2.44			0.57	0.56		
		石川農試	0	—	<0.02	<0.02			0.02	0.02		
			5	14	1.98	1.95			1.13	1.12		
			5	21	0.87	0.87			0.46	0.46		
			5	28	1.36	1.34			0.69	0.68		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
水稲 (玄米) 61年度	粒剤(1.5%) 4kg/10a 散布	千葉農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	21	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			5	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
水稲 (稲わら) 61年度	粒剤(1.5%) 4kg/10a 散布	千葉農試	0	—	<0.02	<0.02			0.05	0.04		
			5	21	1.49	1.48			0.78	0.77		
		石川農試	0	—	<0.02	<0.02			0.02	0.02		
			5	21	1.21	1.18			0.79	0.78		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 62年度	ラフサイトレホン ゾル(水和剤 10%) 原液 100L/10a 空中散布	北海道植防 (A)	0 1	— 37	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01			<0.005 0.005	<0.005 0.005		
		北海道植防 (B)	0 1	— 37	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01			<0.005 0.005	<0.005 0.005		
水稲 (稲わら) 62年度	ラフサイトレホン ゾル(水和剤 10%) 原液 100L/10a 空中散布	北海道植防 (A)	0 1	— 37	<0.04 0.46	<0.04 0.44			<0.01 0.30	<0.01 0.29		
		北海道植防 (B)	0 1	— 37	<0.04 0.36	<0.04 0.34			<0.01 0.49	<0.01 0.48		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 62年度	ラフサイトレホン ゾル(水和剤 10%) 1000倍 100L/10a 地上散布	北海道植防 (A)	0 1	— 37	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01			<0.005 0.005	<0.005 0.005		
		北海道植防 (B)	0 1	— 37	<0.01 <0.01	<0.01 <0.01			<0.005 0.005	<0.005 0.005		
水稲 (稲わら) 62年度	ラフサイトレホン ゾル(水和剤 10%) 1000倍 100L/10a 地上散布	北海道植防 (A)	0 1	— 37	<0.04 0.37	<0.04 0.36			<0.01 0.33	<0.01 0.32		
		北海道植防 (B)	0 1	— 37	<0.04 0.60	<0.04 0.60			<0.01 0.62	<0.01 0.60		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
水稲 (玄米) 63年度	トレボンエアー (乳剤10%) 1000倍 200L/10a 地上散布	千葉防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	0.07	0.06			0.107	0.106		
			3	21	0.05	0.04			0.068	0.068		
			3	28	0.03	0.03			0.042	0.042		
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	0.03	0.02			0.037	0.036		
			3	21	0.04	0.04			0.065	0.064		
			3	28	0.02	0.02			0.017	0.016		
水稲 (稲わら) 63年度	トレボンエアー (乳剤10%) 1000倍 200L/10a 地上散布	千葉防除所	0	—	0.04	0.04			0.01	0.01		
			3	14	3.08	3.00			2.94	2.90		
			3	21	2.48	2.36			1.39	1.38		
			3	28	0.83	0.82			0.98	0.96		
		石川農試	0	—	<0.02	<0.02			0.02	0.02		
			3	14	7.20	7.11			5.87	5.83		
			3	21	5.77	5.51			3.97	3.96		
			3	28	1.86	1.82			2.36	2.35		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 63年度	ヒノラプトレボン (水和剤10%) 1000倍 150L/10a 散布	長野植防 (松代)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			4	21	0.03	0.03			0.071	0.070		
			4	28	0.03	0.02			0.039	0.038		
		滋賀防除所	0	—	0.03	0.02			<0.004	<0.004		
			4	21	0.02	0.02			0.023	0.023		
			4	28	0.01	0.01			0.018	0.018		
水稲 (稲わら) 63年度	ヒノラプトレボン (水和剤10%) 1000倍 150L/10a 散布	長野植防 (松代)	0	—	—	—			0.04	0.04		
			4	21	—	—			6.01	6.00		
			4	28	—	—			3.54	3.50		
		滋賀防除所	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			4	21	—	—			1.97	1.96		
			4	28	—	—			1.78	1.76		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 63年度	油剤(4%) 原液 500mL/10a 水面滴下	栃木農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	43	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
		群馬防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	42	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
水稲 (稲わら) 63年度	油剤(4%) 原液 500mL/10a 水面滴下	栃木農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01		
			3	43	0.07	0.06			0.09	0.08		
		群馬防除所	0	—	<0.02	<0.02			0.01	0.01		
			3	42	0.06	0.06			3.60	3.56		
								三井化学(株)				
水稲 (玄米) 平成2年度	トレボンエアー (乳剤10%) 8倍 8L/ha 無人ヘリ散布	農水協 (静岡)	3	21	—	—			0.010	0.010		
			農水協 (長野)	3	23	—	—			0.016	0.015	

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
水稲 (玄米) 平成元年度	乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布	千葉防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.04	0.04			0.10	0.10		
			3	21	<0.01	<0.01			0.06	0.06		
			3	28	<0.01	<0.01			0.03	0.03		
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.07	0.06			0.03	0.03		
			3	21	0.03	0.03			0.04	0.04		
			3	28	0.03	0.03			0.03	0.02		
水稲 (稲わら) 平成元年度	乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布	千葉防除所	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			3	14	10.8	10.3			8.48	8.38		
			3	21	3.42	3.34			5.96	5.85		
			3	28	1.62	1.61			2.56	2.50		
		石川農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			3	14	4.69	4.66			6.60	6.42		
			3	21	3.93	3.92			4.09	4.06		
			3	28	2.31	2.22			2.76	2.76		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
水稲 (玄米) 平成3年度	ラブサイド トレボン フロアブル (水和剤10%) 1000倍 150L/10a 散布	千葉防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	0.03	0.02			0.023	0.023		
			3	21	0.02	0.02			0.015	0.014		
			3	28	0.01	0.01			0.006	0.006		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	0.03	0.03			0.025	0.024		
			3	21	0.01	0.01			0.010	0.010		
			3	28	0.01	0.01			0.006	0.006		
水稲 (稲わら) 平成3年度	ラブサイド トレボン フロアブル (水和剤10%) 1000倍 150L/10a 散布	千葉防除所	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01		
			3	14	1.52	1.48			2.89	2.86		
			3	21	1.11	1.06			1.02	0.98		
			3	28	1.09	1.06			0.60	0.60		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.02	<0.02			0.01	0.01		
			3	14	3.94	3.91			2.72	2.68		
			3	21	1.79	1.73			1.68	1.66		
			3	28	1.25	1.20			0.81	0.80		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稲 (玄米) 平成元年度	油剤(4%) 750mL/10a 水面滴下	鳥取農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		広島農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
水稲 (稲わら) 平成元年度	油剤(4%) 750mL/10a 水面滴下	鳥取農試	0	—	<0.02	<0.02			—	—		
			3	21	0.37	0.36			—	—		
		広島農試	0	—	<0.02	<0.02			—	—		
			3	21	1.35	1.33			—	—		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
水稲 (玄米) 平成5年度	トレボンEW (乳剤10%) 200倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	日植防研	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			0.022	0.022		
水稲 (稲わら) 平成5年度	トレボンEW (乳剤10%) 200倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	日植防研	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			0.020	0.020		
水稲 (稲わら) 平成5年度	トレボンEW (乳剤10%) 200倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			1.90	1.82		
										三井化学(株)		
水稲 (玄米) 平成6年度	乳剤(20%) 200倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	日植防研	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			0.046	0.046		
	乳剤(20%) 1000倍 125L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			0.068	0.065		
水稲 (稲わら) 平成6年度	乳剤(20%) 200倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	日植防研	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			0.024	0.022		
	乳剤(20%) 1000倍 125L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			3.41	3.18		
水稲 (稲わら) 平成6年度	乳剤(20%) 200倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			2.86	2.86		
水稲 (稲わら) 平成6年度	乳剤(20%) 1000倍 125L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			5.20	5.06		
水稲 (稲わら) 平成6年度	乳剤(20%) 1000倍 125L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		長野植防 (松代)	3	21	—	—			2.88	2.64		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 平成5年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	0.06	0.05			0.069	0.067		
			3	21	0.05	0.04			0.048	0.046		
			3	28	0.03	0.03			0.030	0.030		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	0.06	0.06			0.043	0.040		
			3	21	0.03	0.02			0.019	0.019		
			3	28	<0.01	<0.01			0.007	0.006		
水稲 (稲わら) 平成5年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.02	<0.02			0.04	0.03		
			3	14	9.86	9.77			9.18	9.09		
			3	21	6.22	5.99			7.13	7.06		
			3	28	4.71	4.61			4.88	4.78		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01		
			3	14	4.48	4.37			5.63	5.59		
			3	21	2.60	2.55			5.03	4.96		
			3	28	1.05	1.02			1.73	1.64		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 平成6年度	マイクロカプセル剤(20%) 16倍780又は 800mL/10a 空中散布	新潟植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
		1	22	<0.01	<0.01			0.007	0.007			
	三重防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004			
		1	27	<0.01	<0.01			0.006	0.005			
マイクロカプセル剤(20%) 2000倍 100L/10a 地上散布	新潟植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004			
	1	22	<0.01	<0.01			0.011	0.010				
三重防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004				
	1	27	<0.01	<0.01			0.020	0.018				
水稲 (稲わら) 平成6年度	マイクロカプセル剤(20%) 16倍780又は 800mL/10a 空中散布	新潟植防	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01		
		1	22	0.77	0.76			1.07	1.05			
	三重防除所	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01			
		1	27	0.22	0.21			0.50	0.47			
マイクロカプセル剤(20%) 2000倍 100L/10a 地上散布	新潟植防	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01			
	1	22	0.74	0.72			1.90	1.76				
三重防除所	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01				
	1	27	0.91	0.90			1.56	1.38				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
										三井化学(株)		
水稲 (青刈) 平成6年度	マイクロカプセル剤(20%) 16倍780又は 800mL/10a 空中散布	新潟植防	0	—	—	—			0.01	0.01		
			1	1	—	—			2.68	2.59		
			1	2	—	—			1.55	1.47		
			1	8	—	—			0.91	0.85		
			1	15	—	—			0.56	0.55		
	三重防除所	0	—	—	—			<0.01	<0.01			
		1	1	—	—			2.57	2.39			
		1	6	—	—			0.97	0.95			
		1	13	—	—			0.17	0.16			
		0	—	—	—			<0.01	<0.01			
マイクロカプセル剤(20%) 2000倍 100L/10a 地上散布	新潟植防	0	—	—	—			0.01	0.01			
		1	2	—	—			1.78	1.66			
		1	8	—	—			0.66	0.60			
		1	15	—	—			0.84	0.76			
		0	—	—	—			<0.01	<0.01			
三重防除所	1	1	—	—			4.47	4.04				
	1	6	—	—			2.73	2.60				
	1	13	—	—			0.82	0.80				
	0	—	—	—			<0.01	<0.01				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					三井化学(株)							
水稲 (玄米) 平成7年度	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 120倍 25L/10a ブームスプレーヤ散布	日植防研	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
		3	21	—	—			0.018	0.016			
	長野植防 (松代)	0	—	—	—			<0.004	<0.004			
		3	21	—	—			0.010	0.009			
ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 600倍 125L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.004	<0.004			
	3	21	—	—			0.012	0.011				
長野植防 (松代)	0	—	—	—			<0.004	<0.004				
	3	21	—	—			0.017	0.016				
水稲 (稲わら) 平成7年度	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 120倍 25L/10a ブームスプレーヤ散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		3	21	—	—			2.66	2.56			
	長野植防 (松代)	0	—	—	—			<0.01	<0.01			
		3	21	—	—			1.97	1.96			
ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 600倍 125L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01			
	3	21	—	—			1.53	1.50				
長野植防 (松代)	0	—	—	—			<0.01	<0.01				
	3	21	—	—			3.39	3.34				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
水稲 (玄米) 平成7年度	粉剤 DL (0.5%) 4kg/10a 散布	石川植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.01	<0.01			0.007	0.006		
			3	14	<0.01	<0.01			0.006	0.006		
		日植防研 (愛媛)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
水稲 (稲わら) 平成7年度	粉剤 DL (0.5%) 4kg/10a 散布	石川植防	0	—	<0.04	<0.04			0.01	0.01		
			3	7	3.02	2.98			2.77	2.68		
			3	14	1.62	1.62			3.93	3.83		
		日植防研 (愛媛)	0	—	0.04	0.04			0.08	0.08		
			3	7	1.58	1.58			1.60	1.58		
			3	14	3.02	3.00			1.78	1.76		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
(株)化学分析コンサルタント												
水稲 (玄米) 平成10年度	マイクロカプセル剤(20%) 2000倍 100L/10a 散布	北海道植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		1	27	—	—			<0.01	<0.01			
	栃木植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01			
		1	28	—	—			<0.01	<0.01			
マイクロカプセル剤(20%) 16倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01			
	1	27	—	—			<0.01	<0.01				
水稲 (稲わら) 平成10年度	マイクロカプセル剤(20%) 2000倍 100L/10a 散布	北海道植防	0	—	—	—			<0.02	<0.02		
		1	27	—	—			0.94	0.93			
	栃木植防	0	—	—	—			0.03	0.02			
		1	28	—	—			0.67	0.65			
マイクロカプセル剤(20%) 16倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防	0	—	—	—			<0.02	<0.02			
	1	27	—	—			0.58	0.57				
栃木植防	0	—	—	—			0.03	0.02				
	1	28	—	—			1.00	0.98				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)								
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関				
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス				
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
(株)化学分析コンサルタント													
水稲 (青刈) 平成10年度	マイクロカプセル剤 (20%) 2000倍 100L/10a 散布	北海道植防	0	—	—	—			<0.02	<0.02			
			1	1	—	—			2.02	1.98			
			1	8	—	—			0.89	0.84			
			1	15	—	—			0.10	0.09			
		栃木植防	0	—	—	—			0.05	0.04			
			1	1	—	—			2.16	2.04			
			1	6	—	—			1.26	1.22			
			1	14	—	—			0.30	0.28			
				1	21	—	—			0.25	0.24		
	マイクロカプセル剤 (20%) 16倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防	0	—	—	—			<0.02	<0.02			
			1	1	—	—			0.97	0.91			
			1	8	—	—			0.32	0.31			
			1	15	—	—			0.30	0.30			
		栃木植防	0	—	—	—			0.05	0.04			
1			1	—	—			3.14	3.12				
1			6	—	—			1.02	0.99				
1			14	—	—			0.43	0.42				
			1	21	—	—			0.22	0.22			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
								(株)化学分析コンサルタント				
水稲 (玄米) 平成10年度	マイクロカプセル剤(20%) 300倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	長野植防 (松代)	0 3	— 21	- -	- -			<0.01 0.01	<0.01 0.01		
		三重植防	0 3	— 21	- -	- -			<0.01 <0.01	<0.01 <0.01		
	マイクロカプセル剤(20%) 1500倍 125L/10a 散布	長野植防 (松代)	0 3	— 21	- -	- -			<0.01 0.02	<0.01 0.02		
		三重植防	0 3	— 21	- -	- -			<0.01 0.04	<0.01 0.04		
水稲 (稲わら) 平成10年度	マイクロカプセル剤(20%) 300倍 25L/10a ブームスプレーヤー散布	長野植防 (松代)	0 3	— 21	- -	- -			<0.02 2.27	<0.02 2.22		
		三重植防	0 3	— 21	- -	- -			<0.02 2.38	<0.02 2.28		
	マイクロカプセル剤(20%) 1500倍 125L/10a 散布	長野植防 (松代)	0 3	— 21	- -	- -			<0.02 2.40	<0.02 2.34		
		三重植防	0 3	— 21	- -	- -			<0.02 4.34	<0.02 4.22		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稲 (玄米) 平成 12 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 16 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.02	0.02			0.03	0.02		
			3	21	0.02	0.02			0.02	0.02		
		千葉植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.02	0.02			0.02	0.02		
			3	21	0.01	0.01			0.02	0.02		
水稲 (稲わら) 平成 12 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 16 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防	0	—	0.23	0.23			0.27	0.26		
			3	14	4.93	4.92			5.39	5.21		
			3	21	5.00	4.98			5.05	4.96		
		千葉植防	0	—	<0.04	<0.04			<0.05	<0.05		
			3	14	2.35	2.34			3.69	3.68		
			3	21	1.96	1.94			1.76	1.72		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)								
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関				
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス				
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
水稲 (玄米) 平成 15、 16 年度	トレボンエアー (乳剤 10%) 8 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	千葉植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
			3	14	0.02	0.02			0.02	0.02			
			3	21	<0.01	<0.01			0.01	0.01			
			3	28	<0.01	<0.01			0.01	0.01			
						(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
		岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
			3	21	<0.01	<0.01			0.01	0.01			
3	28		0.01	0.01			0.01	0.01					
水稲 (稲わら) 平成 15、 16 年度	トレボンエアー (乳剤 10%) 8 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布			(財)日本食品分析センター				三井化学(株)					
		千葉植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.02	<0.02			
			3	14	4.43	4.42			4.67	4.59			
			3	21	2.28	2.20			1.17	1.16			
			3	28	3.66	3.58			4.46	4.46			
						(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
		岩手植防	0	—	<0.5	<0.5			<0.5	<0.5			
			3	14	5.1	5.0			4.9	4.8			
			3	21	4.1	4.0			4.6	4.4			
			3	28	3.6	3.4			3.4	3.4			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稻 (玄米) 平成 18、 19 年度	乳剤 (20%) 300 倍 25L/10a ブームスプレーヤー 散布	福井植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.05	0.05			0.04	0.04		
			3	21	0.03	0.03			0.03	0.03		
			3	28	0.03	0.02			0.02	0.02		
		日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.09	0.09			0.06	0.06		
			3	21	0.07	0.07			0.12	0.12		
			3	28	0.03	0.03			0.03	0.03		
水稻 (稲わら) 平成 18、 19 年度	乳剤 (20%) 300 倍 25L/10a ブームスプレーヤー 散布	福井植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	14	3.47	3.35			3.51	3.46		
			3	21	3.09	3.02			2.43	2.40		
			3	28	2.94	2.80			2.86	2.84		
		日植防研 (高知)	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	14	2.44	2.36			3.57	3.49		
			3	21	2.01	1.93			2.61	2.60		
			3	28	1.06	1.02			1.12	1.11		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稲 (玄米) 平成 20 年度	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 620 倍 150L/10a 散布(2回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1回)	岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.02	0.02			0.02	0.02		
			3	14	0.02	0.02			0.04	0.04		
			3	21	0.01	0.01			0.01	0.01		
		千葉農総研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.02	0.02			0.02	0.02		
			3	14	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	21	0.01	0.01			0.02	0.02		
水稲 (稲わら) 平成 20 年度	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 620 倍 150L/10a 散布(2回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1回)	岩手植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	3.45	3.42			4.54	4.52		
			3	14	1.66	1.66			2.86	2.79		
			3	21	0.97	0.96			1.32	1.31		
		千葉農総研	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	2.34	2.33			2.68	2.66		
			3	14	1.14	1.10			1.36	1.34		
			3	21	0.80	0.80			0.79	0.78		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稲 (玄米) 平成 20 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 150L/10a 散布(2 回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1 回)	岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.03	0.03			0.04	0.04		
			3	14	0.03	0.03			0.04	0.04		
			3	21	0.03	0.03			0.04	0.04		
		千葉農総研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.03	0.03			0.04	0.04		
			3	14	0.02	0.02			0.04	0.04		
			3	21	0.03	0.02			0.03	0.03		
水稲 (稲わら) 平成 20 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 150L/10a 散布(2 回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1 回)	岩手植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	7.17	7.06			8.58	8.26		
			3	14	5.65	5.52			6.29	6.22		
			3	21	2.68	2.64			3.76	3.73		
		千葉農総研	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	7.94	7.94			7.45	7.38		
			3	14	5.08	5.04			4.09	4.04		
			3	21	3.10	3.04			3.34	3.32		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稲 (玄米) 平成 20 年度	乳剤 (20%) 1000 倍 150L/10a 散布(2回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1回)	岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.04	0.04			0.03	0.03		
			3	14	0.04	0.04			0.06	0.06		
			3	21	0.03	0.02			0.05	0.05		
		千葉農総研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.03	0.03			0.05	0.04		
			3	14	0.02	0.02			0.04	0.04		
			3	21	0.03	0.03			0.04	0.04		
水稲 (稲わら) 平成 20 年度	乳剤 (20%) 1000 倍 150L/10a 散布(2回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1回)	岩手植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	6.71	6.59			8.17	8.16		
			3	14	2.70	2.67			4.30	4.30		
			3	21	1.83	1.82			3.02	2.94		
		千葉農総研	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	4.16	4.13			6.43	6.33		
			3	14	2.35	2.34			3.99	3.96		
			3	21	1.86	1.85			2.88	2.79		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学リッコ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稲 (玄米) 平成 20、 21 年度	トレボンエアー (乳剤 10%) 8 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布 (2 回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1 回)	岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		福井植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	14	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
水稲 (稲わら) 平成 20、 21 年度	トレボンエアー (乳剤 10%) 8 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布 (2 回) 粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布(1 回)	岩手植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	5.02	4.96			6.03	5.98		
			3	14	1.58	1.55			1.12	1.11		
			3	21	1.59	1.51			1.56	1.52		
		福井植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	4.72	4.62			4.44	4.38		
			3	14	2.87	2.79			2.61	2.60		
			3	21	1.64	1.57			1.48	1.48		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
水稲 (玄米) 平成 24 年度 (GLP)	乳剤(20%) 1000 倍 144L 又は 142L/10a 散布	青森植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.08	0.08		
			3	14	—	—			0.07	0.06		
			3	21	—	—			0.05	0.05		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.11	0.10		
			3	14	—	—			0.13	0.13		
			3	21	—	—			0.14	0.14		
水稲 (稲わら) 平成 24 年度 (GLP)	乳剤(20%) 1000 倍 144L 又は 142L/10a 散布	青森植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			10.6	10.5		
			3	14	—	—			6.60	6.47		
			3	21	—	—			2.55	2.54		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			13.7	13.7		
			3	14	—	—			8.96	8.86		
			3	21	—	—			5.35	5.14		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
水稲 (玄米) 平成 24 年度 (GLP)	ビームエイトレボソル (水和剤 6.2%) 620 倍 150L 又は 146L/10a 散布	日植防研 (千葉)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.09	0.09		
			3	14	—	—			0.08	0.08		
			3	21	—	—			0.09	0.09		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.11	0.11		
			3	14	—	—			0.08	0.08		
			3	21	—	—			0.07	0.07		
水稲 (稲わら) 平成 24 年度 (GLP)	ビームエイトレボソル (水和剤 6.2%) 620 倍 150L 又は 146L/10a 散布	日植防研 (千葉)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			6.88	6.78		
			3	14	—	—			5.27	5.22		
			3	21	—	—			4.72	4.71		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			9.04	9.02		
			3	14	—	—			4.51	4.32		
			3	21	—	—			2.39	2.23		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
(株)化学分析コンサルタント												
水稲 (玄米) 平成 26 年度	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 120 倍 25L/10a ブームスプレーヤ散布	日植防協会 (茨城)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.02	0.02		
		3	21	—	—			0.02	0.02			
		日植防協会 (千葉)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
	3		14	—	—			0.02	0.02			
	3	21	—	—			0.02	0.02				
	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 620 倍 150L/10a 散布	日植防協会 (茨城)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.04	0.04		
3		21	—	—			0.04	0.04				
日植防協会 (千葉)		0	—	—	—			<0.01	<0.01			
	3	14	—	—			0.05	0.05				
3	21	—	—			0.03	0.03					
水稲 (稲わら) 平成 26 年度	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 120 倍 25L/10a ブームスプレーヤ散布	日植防協会 (茨城)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			2.12	2.10		
		3	21	—	—			1.77	1.76			
		日植防協会 (千葉)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
	3		14	—	—			2.41	2.40			
	3	21	—	—			2.41	2.36				
	ビームエイトレホン ゾル(水和剤 6.2%) 620 倍 150L/10a 散布	日植防協会 (茨城)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			2.76	2.76		
3		21	—	—			2.59	2.58				
日植防協会 (千葉)		0	—	—	—			<0.01	<0.01			
	3	14	—	—			4.37	4.22				
3	21	—	—			3.19	3.16					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
JA 全農 営農・技術センター												
水稲** (玄米) 平成 21 年度	乳剤(20%) 300 倍 25L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.02	0.02		
		日植防研 (千葉)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		3	14	—	—			0.02	0.02			
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.01	0.01		
水稲** (粳) 平成 21 年度	乳剤(20%) 300 倍 25L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			1.22	1.21		
		日植防研 (千葉)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		3	14	—	—			1.06	1.04			
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.88	0.86		
水稲** (稲わら) 平成 21 年度	乳剤(20%) 300 倍 25L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			2.31	2.28		
		日植防研 (千葉)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
		3	14	—	—			2.09	2.04			
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			2.07	1.98		

** 粳指導基準値設定依頼中

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
小麦 (玄麦) 62年度	乳剤(20%) 2000倍 200L/10a 散布	千葉防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			2	14	0.01	0.01			0.023	0.022		
			2	21	<0.01	<0.01			0.006	0.006		
			2	28	<0.01	<0.01			0.005	0.005		
		石川農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			2	13	0.13	0.12			0.162	0.160		
			2	21	0.06	0.06			0.058	0.058		
			2	29	<0.01	<0.01			0.008	0.008		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
小麦 (玄麦) 平成22年度	乳剤(20%) 2000倍 150又は120L/10a 散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	7	0.26	0.26			0.22	0.21		
			2	14	0.14	0.14			0.12	0.12		
			2	21	0.04	0.04			0.03	0.03		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	7	0.12	0.11			0.12	0.12		
			2	14	0.04	0.04			0.04	0.04		
			2	21	0.02	0.02			0.01	0.01		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
小麦 (玄麦) 平成3年度	トレボンエアー (乳剤10%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	岐阜防除所 (岐阜市)	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			2	7	0.08	0.08			0.091	0.086		
		岐阜防除所 (大野町)	0	—	<0.01	<0.01			0.010	0.010		
			2	7	0.11	0.10			0.105	0.101		
	乳剤(20%) 2000倍 100L/10a 地上散布	岐阜防除所 (岐阜市)	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			2	7	0.23	0.23			0.268	0.260		
		岐阜防除所 (大野町)	0	—	<0.01	<0.01			0.010	0.010		
			2	7	0.37	0.37			0.359	0.334		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
小麦 (玄麦) 平成 17 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 16 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	14	0.02	0.02			0.03	0.03		
			2	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	30	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	21	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			2	28	0.01	0.01			<0.01	<0.01		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
小麦 (玄麦) 平成 23 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 16 倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	7	0.03	0.02			0.02	0.02		
			2	14	0.02	0.02			0.02	0.02		
			2	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	7	0.04	0.04			0.04	0.04		
			2	14	0.02	0.02			0.03	0.02		
			2	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
とうもろこし (未成熟雌穂) 59 年度	乳剤(20%) 1000 倍 250L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		長野農総試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	7	0.06	0.06			<0.01	<0.01		
			4	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
とうもろこし (乾燥種実) 59年度	乳剤(20%) 1000倍 250L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	7	<0.01	<0.01			0.02	0.02		
		長野農総試	4	14	<0.01	<0.01			0.04	0.04		
			0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		4	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
		4	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
				(財)日本食品分析センター								
きび* (種子) 平成16年度	乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布	長崎防除所	0	—	<0.05	<0.05			—	—		
			3	14	1.39	1.38			—	—		
			3	21	0.42	0.42			—	—		
			3	28	0.32	0.31			—	—		
		熊本農研 センター	0	—	<0.05	<0.05			—	—		
			3	14	0.47	0.47			—	—		
		3	21	0.14	0.14			—	—			
		3	28	0.06	0.06			—	—			
				(株)化学分析コンサルタント								
きび* (種子) 平成24年度	乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布	長崎農林技術 開発センター	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.13	0.13		
			3	21	—	—			0.10	0.10		
			3	28	—	—			0.06	0.06		
		熊本農研 センター	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.23	0.23		
			3	21	—	—			0.09	0.09		
			3	28	—	—			0.04	0.04		

* 適用拡大申請中(2013年9月10日付)試験報告書提出:2013年9月10日

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
(財)日本食品分析センター												
あわ** (種子) 平成 16 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L /10a 散布	鳥取農試	0	—	<0.05	<0.05			—	—		
			3	14	2.26	2.24			—	—		
			3	21	1.49	1.46			—	—		
			3	29	0.50	0.50			—	—		
		長崎防除所	0	—	<0.05	<0.05			—	—		
			3	14	1.51	1.48			—	—		
			3	21	1.00	0.98			—	—		
			3	28	0.89	0.88			—	—		
(株)化学分析コンサルタント												
あわ** (種子) 平成 24、25 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L /10a 散布	長崎農林技術 開発センター	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			1.79	1.76		
			3	21	—	—			0.97	0.96		
			3	28	—	—			0.68	0.68		
		長崎農林技術 開発センター	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			1.22	1.21		
			3	21	—	—			0.80	0.79		
			3	28	—	—			0.42	0.41		

** 適用拡大申請中(2015年5月21日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいず (乾燥子実) 58、59年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	福島農試 (相馬)	0	—	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			2	14	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
		長野農事試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	13	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいず (乾燥子実) 平成4年度	トレボンエアー (乳剤10%) 4倍 0.97~1.04又は 0.82~0.83L/10a 無人ヘリ散布	愛知農総試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			2	14	<0.01	<0.01			0.005	0.005		
		福岡植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			2	15	0.03	0.03			0.035	0.034		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいず (乾燥子実) 平成6年度	トレボンエアー (乳剤10%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	兵庫農技 センター	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			2	14	—	—			<0.004	<0.004		
		福岡農総試	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			2	14	—	—			<0.004	<0.004		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいず (乾燥子実) 平成7年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 150L/10a 散布	北海道十勝 農試	0	—	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			2	14	0.006	0.006			0.007	0.006		
		滋賀植防	0	—	<0.005	<0.005			0.004	0.004		
			2	14	0.062	0.060			0.028	0.025		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいず (乾燥子実) 平成6年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 150L/10a 散布	福島植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			2	14	<0.01	<0.01			0.015	0.014		
		長野植防	0	—	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
			2	13	0.04	0.04			0.038	0.036		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)								
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関				
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス				
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
だいず (乾燥子実) 平成9年度	マイクロカプセル剤 (20%)1000倍 150L/10a 散布	三井化学(株)	0	—	—	—			<0.005	<0.005			
			2	7	—	—			0.064	0.062			
			2	14	—	—			0.013	0.012			
			2	21	—	—			0.009	0.008			
		乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	三井化学(株)	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
				2	7	—	—			0.054	0.053		
				2	14	—	—			0.016	0.014		
				2	21	—	—			0.006	0.006		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
だいず (乾燥子実) 平成10年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 200L/10a 散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
			2	7	0.03	0.03			0.02	0.02			
			2	14	0.02	0.02			0.01	0.01			
			2	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
			長野中信農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
				2	7	0.03	0.03			0.02	0.02		
				2	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
				2	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
だいず (乾燥子実) 平成13年度	マイクロカプセル剤 (20%) 8倍 0.8L/10a 無人ヘリ散布	石川農総研 センター	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02			
			2	7	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02			
			2	14	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02			
			2	21	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02			
			福岡植防	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
				2	7	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
				2	14	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
				2	21	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
(財)日本食品分析センター					三井化学(株)							
あずき (乾燥子実) 平成元年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	福島植防 (郡山)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			0.011	0.010		
		新潟高冷地 (農セ)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			5	14	<0.01	<0.01			0.005	0.004		
					三井化学(株)							
あずき (乾燥子実) 平成8年度	乳剤(20%) 1000倍 90又は100L/10a 散布	兵庫植防 (神崎郡)	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			1	7	—	—			0.005	0.005		
			1	14	—	—			0.004	0.004		
		兵庫植防 (氷上郡)	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			1	7	—	—			0.004	0.004		
1	14	—	—			0.004	0.004					
					三井化学(株)							
あずき (乾燥子実) 平成8年度	トレボンエアー (乳剤10%) 8倍 2.0又は1.9L/10a 散布	兵庫植防 (神崎郡)	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			1	7	—	—			0.004	0.004		
			1	14	—	—			0.004	0.004		
		兵庫植防 (氷上郡)	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			1	7	—	—			0.005	0.005		
1	14	—	—			0.004	0.004					

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
								(株)化学分析コンサルタント				
らっかせい (乾燥子実) 平成 16 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200 又は 156.25L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			<0.01	<0.01		
			3	21	—	—			<0.01	<0.01		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			<0.01	<0.01		
			3	21	—	—			<0.01	<0.01		
								(株)化学分析コンサルタント				
らっかせい (乾燥子実) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 177 又は 183L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	14	—	—			<0.01	<0.01		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	14	—	—			<0.01	<0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
ばれいしょ (塊茎) 59年度	乳剤(20%) 1000倍 150又は300L/10a 散布	北海道十勝 農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		長野植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
ばれいしょ (塊茎) 平成13年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 200又は300L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		広島植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
ばれいしょ (塊茎) 平成23年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 180又は175L/10a 散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		鹿児島農環協	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
さといも (球茎) 平成 4 年度	乳剤(20%) 1000 倍 250L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.005	<0.005			0.005	0.005		
			3	14	<0.005	<0.005			0.004	0.004		
		鹿児島農試	0	—	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
					沖縄防除所							
みずいも (塊茎) 平成 16 年度	乳剤(20%) 1000 倍 150L/10a 散布	沖縄防除所 (宜野湾市)	0	—	<0.005	<0.005			—	—		
			3	14	<0.005	<0.005			—	—		
			3	21	<0.005	<0.005			—	—		
			3	28	<0.005	<0.005			—	—		
		沖縄防除所 (金武町)	0	—	<0.005	<0.005			—	—		
			3	14	0.007	0.007			—	—		
			3	21	<0.005	<0.005			—	—		
			3	28	<0.005	<0.005			—	—		
					(株)化学分析コンサルタント							
みずいも (塊茎) 平成 24 年度	乳剤(20%) 1000 倍 100L/10a 散布	沖縄農研 (名護)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			<0.01	<0.01		
		沖縄農研 (石垣)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			<0.01	<0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
かんしょ (塊茎) 平成2年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
		静岡農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
かんしょ (塊茎) 平成23年度	乳剤(20%) 1000倍 188又は175L/10a 散布	石川植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		鹿児島農環協	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
やまのいも (塊茎) 平成4年度	乳剤(20%) 1000倍 350又は250L/10a 散布	青森畑作園試	0	—	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
		日植防研	0	—	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.005	<0.005			<0.004	<0.004		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
やまのいも (塊茎) 平成9年度	トレボンエアー (乳剤10%) 8倍 3.2L/10a 無人ヘリ散布	青森畑作園試	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			<0.005	<0.005		
			1	13	—	—			<0.005	<0.005		
			1	22	—	—			<0.005	<0.005		
		鳥取園試	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			<0.005	<0.005		
			1	14	—	—			<0.005	<0.005		
			1	21	—	—			<0.005	<0.005		
三井化学(株)												
やまのいも (塊茎) 平成9年度	乳剤(20%) 1000倍 350L/10a 散布	青森畑作園試	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			<0.005	<0.005		
			1	13	—	—			<0.005	<0.005		
			1	22	—	—			<0.005	<0.005		
		鳥取園試	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			<0.005	<0.005		
			1	14	—	—			<0.005	<0.005		
			1	21	—	—			<0.005	<0.005		
鳥取農業試験場												
ながいも (塊茎) 平成元年度	粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布	鳥取農試	0	—	<0.03	<0.03			—	—		
			2	23	<0.03	<0.03			—	—		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
てんさい (根部) 59年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	28	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
		北海道中央 農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.04	0.04			0.10	0.10		
			3	21	0.03	0.03			0.08	0.08		
			3	28	0.04	0.04			0.03	0.03		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
てんさい (根部) 平成12年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 150又は200L/10a 散布	北海道農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	7	0.08	0.08			0.082	0.078		
			3	14	0.04	0.04			0.038	0.036		
			3	21	0.08	0.08			0.076	0.076		
		北海道植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	7	0.07	0.07			0.032	0.032		
			3	14	0.02	0.02			0.037	0.036		
			3	21	0.07	0.06			0.029	0.028		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
てんさい (根部) 平成12年度	マイクロカプセル剤 (20%) 8倍 1.6L/10a 無人ヘリ散布	北海道植防 (恵庭)	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	14	0.05	0.05			0.054	0.051		
			3	21	0.02	0.02			0.020	0.019		
		北海道植防 (音更)	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	14	<0.01	<0.01			0.007	0.006		
			3	21	0.01	0.01			0.011	0.010		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
てんさい (根部) 平成 23 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 200L/10a 散布	北海道植防 (札幌)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.04	0.04			0.01	0.01		
		北海道植防 (夕張)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.07	0.06			0.08	0.08		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
さとうきび (茎) 平成 4 年度	粒剤(1.5%) 植付前 植溝処理1回9kg/10a 散布2回9kg/10a	鹿児島農試	0	—	<0.005	<0.005			<0.005	<0.005		
			3	45	<0.005	<0.005			0.005	0.005		
		沖縄農試	0	—	<0.005	<0.005			<0.005	<0.005		
			3	45	<0.005	<0.005			0.009	0.007		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいこん (根部) 58 年度	乳剤(20%) 1000 倍 150L/10a 散布	埼玉園試 (鶴ヶ島)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.02	0.02			0.01	0.01		
			3	14	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
だいこん (葉部) 58 年度	乳剤(20%) 1000 倍 150L/10a 散布	埼玉園試 (鶴ヶ島)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	6.72	6.69			4.32	4.31		
			3	14	2.06	1.97			1.68	1.66		
			3	21	0.48	0.46			0.54	0.54		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいこん (根部) 61年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	群馬農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	15	0.01	0.01			0.02	0.02		
			3	21	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	30	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		長野中信農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	13	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	23	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	28	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
だいこん (葉部) 61年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	群馬農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	15	0.14	0.13			0.01	0.01		
			3	21	0.07	0.07			0.01	0.01		
			3	30	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		長野中信農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	13	0.36	0.35			0.34	0.34		
			3	23	0.03	0.03			<0.01	<0.01		
			3	28	0.01	0.01			0.01	0.01		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
だいこん (根部) 62年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	長野農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	14	<0.01	<0.01			0.007	0.006		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	30	0.01	0.01			<0.005	<0.005		
		石川砂丘農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	14	0.05	0.05			0.025	0.024		
			3	21	0.03	0.03			0.023	0.022		
			3	30	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
だいこん (葉部) 62年度	乳剤(20%) 1000倍 150L/10a 散布	長野農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	14	0.33	0.32			0.223	0.220		
			3	21	0.03	0.03			0.043	0.042		
			3	30	0.03	0.03			<0.005	<0.005		
		石川砂丘農試	0	—	<0.01	<0.01			0.008	0.008		
			3	14	1.96	1.88			1.70	1.69		
			3	21	1.16	1.12			0.948	0.942		
			3	30	0.29	0.29			0.197	0.195		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
だいこん (根部) 平成16年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 176~180又は 150L/10a 散布	青森植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			0.03	0.03		
			3	14	0.02	0.02			0.02	0.02		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		福島植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.03	0.03			0.03	0.03		
			3	14	0.02	0.02			0.03	0.03		
			3	20	0.03	0.02			0.02	0.02		
だいこん (葉部) 平成16年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 176~180又は 150L/10a 散布	青森植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	11.0	10.8			11.0	11.0		
			3	14	6.43	6.17			4.96	4.92		
			3	21	1.44	1.40			3.20	3.14		
		福島植防	0	—	<0.05	<0.05			<0.05	<0.05		
			3	7	7.05	6.90			7.75	7.50		
			3	14	1.90	1.88			1.92	1.86		
			3	20	0.83	0.82			0.87	0.84		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
だいこん (根部) 平成 23 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 200 又は 167L/10a 散布	新潟植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.13	0.13			0.13	0.13		
			3	14	0.12	0.12			0.07	0.06		
			3	21	0.06	0.06			0.05	0.05		
		福井植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.06	0.06			0.04	0.04		
			3	14	0.06	0.06			0.03	0.03		
			3	21	0.05	0.05			0.03	0.03		
だいこん (葉部) 平成 23 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 200 又は 167L/10a 散布	新潟植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	9.54	9.44			6.45	6.38		
			3	14	3.15	3.08			2.79	2.73		
			3	21	1.48	1.46			1.56	1.56		
		福井植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	7.61	7.44			5.61	5.56		
			3	14	2.79	2.70			2.01	2.00		
			3	21	1.01	1.00			0.46	0.44		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
はくさい (茎葉) 58 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200 又は 300~ 400L/10a 散布	栃木農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.08	0.08			0.12	0.12		
			3	14	0.02	0.02			0.02	0.02		
			3	22	0.01	0.01			<0.01	<0.01		
		長野植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.15	0.14			0.18	0.18		
			3	14	0.02	0.02			0.03	0.03		
			3	21	0.07	0.07			0.04	0.04		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
はくさい (茎葉) 平成 16、 17 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 300L/10a 散布	長野植防 (南信)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	4.33	4.22			2.12	2.11		
			3	7	1.56	1.48			2.32	2.32		
			3	14	1.22	1.20			1.19	1.16		
		徳島植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	1.87	1.84			0.47	0.46		
			3	7	2.02	2.02			2.04	2.00		
			3	14	1.80	1.79			0.67	0.66		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
はくさい (茎葉) 平成 23 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 250L/10a 散布	岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	1.37	1.36			1.35	1.34		
			3	7	1.83	1.79			1.45	1.45		
			3	14	1.10	1.08			0.84	0.84		
		三重植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	3.91	3.86			2.95	2.89		
			3	7	2.57	2.50			2.08	2.04		
			3	14	2.96	2.88			1.86	1.84		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
キャベツ (葉球) 58 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200 又は 250L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	0.32	0.31			0.06	0.06		
			3	7	0.16	0.15			0.04	0.04		
			3	14	0.09	0.09			<0.01	<0.01		
		神奈川園試 (三浦)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	0.21	0.20			0.04	0.04		
			3	7	0.06	0.06			0.02	0.02		
			3	14	0.08	0.08			0.01	0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アックロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
キャベツ (葉球) 平成3年度	乳剤 (10%) 1000倍 200L/10a 散布	長野植防	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			3	3	—	—			0.025	0.024		
			3	7	—	—			0.010	0.010		
			3	14	—	—			<0.004	<0.004		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			3	3	—	—			0.203	0.192		
			3	7	—	—			0.145	0.142		
			3	14	—	—			0.077	0.076		
								三井化学(株)				
キャベツ (葉球) 平成3年度	乳剤 (20%) 1000倍 200L/10a 散布	長野植防	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			3	3	—	—			0.021	0.019		
			3	7	—	—			0.008	0.008		
			3	14	—	—			<0.004	<0.004		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			3	3	—	—			0.399	0.394		
			3	7	—	—			0.324	0.320		
			3	14	—	—			0.122	0.113		
								三井化学(株)				
								(財)日本食品分析センター				
キャベツ (葉球) 平成13年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 150~200又は 208L/10a 散布	北海道農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			3	3	0.08	0.08			0.06	0.06		
			3	7	<0.02	<0.02			0.04	0.04		
			3	14	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
		新潟農総研	0	—	<0.02	<0.02			<0.02	<0.02		
			3	3	0.20	0.20			0.14	0.12		
			3	7	0.26	0.26			0.03	0.03		
			3	14	0.03	0.02			<0.02	<0.02		
								(株)化学分析コンサルタント				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
キャベツ (葉球) 平成 23、 24 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 300 又は 250L/10a 散布	長野植防 (松代)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	0.35	0.34			0.11	0.10		
			3	7	0.34	0.34			0.14	0.14		
			3	14	0.18	0.18			<0.01	<0.01		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	0.10	0.10			0.12	0.12		
			3	7	0.10	0.10			0.06	0.06		
			3	14	0.03	0.03			0.04	0.04		
								(株)化学分析コンサルタント				
ブロッコリー* (花蕾) 平成 24 年度 (GLP)	乳剤 (20%) 1000 倍 299 又は 200L/10a 散布	長野植防 (松代)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	1	—	—			1.18	1.16		
			3	3	—	—			1.19	1.16		
			3	7	—	—			0.37	0.36		
		和歌山植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	1	—	—			3.46	3.41		
			3	3	—	—			3.51	3.44		
			3	7	—	—			1.74	1.72		
								鳥取農業試験場				
畑わさび (根及び根茎) 平成 18 年度	粒剤(1.5%) 植付時植溝 土壌混和 1 回 3kg/10a 散布 1 回 3kg/10a	鳥取園試	0	—	<0.2	<0.2			—	—		
			2	7	1.2	1.2			—	—		
			2	14	<0.2	<0.2			—	—		
			2	21	<0.2	<0.2			—	—		
		八頭農業改良 普及所	0	—	<0.2	<0.2			—	—		
			2	7	0.8	0.8			—	—		
			2	14	0.5	0.5			—	—		
			2	21	<0.2	<0.2			—	—		

* 適用拡大申請中(2013年9月10日)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
畑わさび (根及び根茎) 平成 24 年度	粒剤(1.5%) 植付時植溝 土壌混和 1 回 3kg/10a 散布 1 回 3kg/10a	鳥取農林総研 (東伯郡)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			0.08	0.08		
			2	14	—	—			0.08	0.08		
			2	21	—	—			0.08	0.08		
		鳥取農林総研 (八頭郡)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			0.35	0.35		
			2	14	—	—			0.34	0.34		
			2	21	—	—			0.14	0.14		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
レタス (施設) (茎葉) 平成 3 年度	乳剤 (20%) 1000 倍 150L/10a 散布	茨城園試	0	—	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
			3	3	2.84	2.80			2.990	2.940		
			3	7	2.33	2.30			1.900	1.840		
			3	14	0.79	0.75			0.110	0.108		
		長野農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	3	1.32	1.30			0.207	0.206		
			3	7	2.10	2.02			0.161	0.159		
			3	14	0.05	0.05			0.048	0.047		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
レタス (施設) (茎葉) 平成 22 年度	乳剤(20%) 1000 倍 300 又は 222,247,185L/10a 散布	群馬植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	4.24	4.20			4.01	3.92		
			3	14	1.20	1.20			0.91	0.89		
			3	21	0.41	0.40			0.06	0.06		
		和歌山植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	3.05	2.96			5.75	5.65		
			3	14	0.27	0.26			0.52	0.50		
			3	21	0.02	0.02			0.01	0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
レタス (施設) (茎葉) 平成 26 年度 (GLP)	乳剤 (20%) 1000 倍 293,200,300 又は 250L/10a 散布	長野植防 (松代)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.42	0.41		
			3	14	—	—			0.06	0.06		
			3	21	—	—			0.01	0.01		
		日植防宮崎	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.28	0.28		
			3	14	—	—			0.05	0.05		
			3	21	—	—			0.01	0.01		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
ふき (茎) 平成 4 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	愛知農総試	0	—	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	7	0.29	0.29			0.60	0.57		
			3	14	0.58	0.56			0.43	0.42		
			3	21	0.43	0.41			0.53	0.51		
		愛知農総試	0	—	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	7	1.04	1.00			1.32	1.22		
			3	14	0.43	0.41			0.53	0.51		
			3	21	0.43	0.41			0.53	0.51		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
ねぎ (葉ねぎ) (茎葉) 平成元年度	乳剤 (20%) 1000倍 150L/10a 散布	鳥取果試 (西伯)	0	—	<0.02	<0.02			<0.005	<0.005		
			2	7	0.37	0.36			0.445	0.439		
			2	14	0.20	0.19			0.163	0.162		
			2	21	0.31	0.30			0.151	0.150		
		広島農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.005	<0.005		
			2	7	3.33	3.28			2.470	2.450		
			2	14	2.02	1.99			0.863	0.848		
			2	21	1.04	1.00			0.779	0.766		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
ねぎ (葉ねぎ) (茎葉) 平成8年度	乳剤 (20%) 1000倍 150L/10a 散布	滋賀病虫害 防除所	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			2	7	0.28	0.28			0.297	0.292		
			2	14	0.04	0.04			0.087	0.086		
			2	21	0.03	0.03			0.068	0.062		
		大分植防	0	—	0.02	0.02			0.014	0.014		
			2	7	0.13	0.13			0.213	0.206		
			2	14	0.02	0.02			0.084	0.075		
			2	21	0.02	0.02			0.028	0.028		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
ねぎ (根深ねぎ) (茎葉) 平成元、2年度	乳剤 (20%) 1000倍 150L/10a 散布	鳥取果試 (西伯)	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			2	7	—	—			0.617	0.615		
			2	14	—	—			0.403	0.398		
			2	21	—	—			0.449	0.437		
		埼玉植防	0	—	—	—			<0.004	<0.004		
			2	7	—	—			0.573	0.568		
			2	14	—	—			0.202	0.200		
			2	21	—	—			0.186	0.179		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
大分農林水産研究センター												
みつば (茎葉) 平成 18、 19 年度	乳剤 (20%) 1000 倍 300 又は 150L/10a 散布	宇佐市	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			2	14	6.5	6.2			—	—		
			2	21	2.6	2.4			—	—		
			2	28	0.2	0.2			—	—		
			2	35	0.1	0.1			—	—		
		大分市	0	—	<0.2	<0.2			—	—		
			2	20	1.6	1.6			—	—		
			2	28	0.9	0.8			—	—		
			2	35	0.7	0.6			—	—		
			大分県薬剤師会検査センター									
みつば (茎葉) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 100・150L/10a 散布	大分農林水産 (大分市)	0	—	<0.005	<0.005			—	—		
			2	14	1.98	1.98			—	—		
			2	21	1.34	1.27			—	—		
			2	30	1.07	1.05			—	—		
			大分農林水産 (豊後大野市)	0	—	<0.005	<0.005			—	—	
		2		14	8.88	8.79			—	—		
		2		21	2.68	2.54			—	—		
		2		30	0.108	0.105			—	—		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)									
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関					
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス					
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
せり (施設) (茎葉) 平成 17、 18 年度	乳剤 (20%) 1000 倍 300 又は 150L/10a 散布	大分農林水産 研究センター	0	—	<0.2	<0.2			—	—				
			2	14	6.1	6.0			—	—				
			2	21	1.6	1.6			—	—				
			2	28	0.3	0.3			—	—				
			2	35	0.3	0.3			—	—				
		大分農林水産研究センター												
		大分農林水産 研究センター	0	—	<0.2	<0.2			—	—				
			2	21	1.5	1.4			—	—				
			2	28	0.7	0.7			—	—				
			2	35	0.2	0.2			—	—				
(株)化学分析コンサルタント														
せり (施設) (茎葉) 平成 24 年度	乳剤 (20%) 1000 倍 100 又は 100・150L/10a 散布	大分農林水産 研究センター (大分)	0	—	—	—			<0.01	<0.01				
			2	14	—	—			0.41	0.40				
			2	21	—	—			0.05	0.05				
			2	28	—	—			0.02	0.02				
		大分農林水産 研究センター (豊後)	0	—	—	—			<0.01	<0.01				
			2	21	—	—			0.52	0.52				
			2	28	—	—			0.21	0.21				
			2	35	—	—			0.08	0.08				
			(株)化学分析コンサルタント											
			(株)化学分析コンサルタント											

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					東京都農林水産総合研究センター							
あしたば (茎葉) 平成 18 年度	乳剤 (20%) 2000 倍 300L/10a 散布	東京都島しょ 農林水産 総合センター 八丈事業所	0	—	<0.20	<0.20			—	—		
			3	1	9.09	8.92			—	—		
			3	3	6.48	6.38			—	—		
			3	7	1.34	1.26			—	—		
			3	14	<0.20	<0.20			—	—		
		3	21	<0.20	<0.20			—	—			
		東京都島しょ 農林水産 総合センター 大島事業所	0	—	<0.20	<0.20			—	—		
			3	1	12.20	12.10			—	—		
			3	3	7.10	6.80			—	—		
			3	7	1.38	1.32			—	—		
3	14		<0.20	<0.20			—	—				
3	21	<0.20	<0.20			—	—					
					(株)化学分析コンサルタント							
あしたば (茎葉) 平成 23、 24 年度	乳剤 (20%) 2000 倍 227.3 又は 222L/10a 散布	東京都島しょ 農林水産 総合センター 八丈事業所	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	3	—	—			0.56	0.56		
			3	7	—	—			0.04	0.04		
			3	14	—	—			0.01	0.01		
		日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	3	—	—			0.95	0.94		
			3	7	—	—			0.02	0.02		
3	14	—	—			0.01	0.01					
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
トマト (施設) (果実) 平成 2 年度	乳剤(20%) 1000 倍 300 又は 250L/10a 散布	日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			2	1	0.42	0.42			0.556	0.555		
			2	3	0.61	0.60			0.625	0.609		
			2	7	0.62	0.60			0.438	0.432		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			2	1	0.25	0.25			0.238	0.233		
			2	3	0.25	0.24			0.299	0.264		
			2	7	0.23	0.23			0.195	0.190		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学テック株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
トマト (施設) (果実) 平成3年度 (参考データ)	トレボンVPくん煙剤 くん煙剤(6%) 20g/100m ³ くん煙	日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.002	<0.002		
			3	1	0.12	0.11			<0.002	<0.002		
			3	3	0.07	0.06			<0.002	<0.002		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.002	<0.002		
			3	1	0.18	0.18			<0.002	<0.002		
			3	3	0.12	0.12			<0.002	<0.002		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
ピーマン (施設) (果実) 平成3年度	乳剤(20%) 1000倍 200又は300L/10a 散布	長野農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	1.68	1.64			1.750	1.710		
			3	3	1.64	1.58			1.540	1.470		
			3	7	0.90	0.87			0.980	0.922		
		日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	2.72	2.62			2.730	2.660		
			3	3	2.45	2.40			2.350	2.280		
			3	7	1.73	1.72			1.750	1.680		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
ピーマン (施設) (果実) 平成22年度	乳剤(20%) 1000倍 200又は250L/10a 散布	岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	1.25	1.25			1.34	1.34		
			3	3	1.46	1.40			1.32	1.30		
			3	7	0.79	0.78			0.97	0.96		
		鹿児島農環協	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	2.79	2.77			2.35	2.30		
			3	3	2.73	2.64			2.59	2.56		
			3	7	1.46	1.43			1.51	1.46		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
なす (施設) (果実) 59年度	乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.48	0.48			0.64	0.64		
			3	3	0.42	0.41			0.46	0.46		
			3	7	0.14	0.14			0.20	0.20		
		和歌山植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.17	0.16			0.14	0.14		
			3	3	0.09	0.09			0.08	0.08		
			3	7	0.02	0.02			0.01	0.01		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
なす (施設) (果実) 平成12年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 183又は300L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	0.23	0.23			0.262	0.258		
			3	3	0.11	0.11			0.209	0.208		
			3	7	0.01	0.01			0.024	0.024		
		岐阜植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	0.28	0.28			0.319	0.305		
			3	3	0.19	0.18			0.284	0.278		
			3	7	0.06	0.06			0.091	0.090		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
なす (施設) (果実) 平成23年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000倍 297又は292L/10a 散布	群馬植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.33	0.32			0.30	0.29		
			3	3	0.20	0.19			0.28	0.27		
			3	7	0.03	0.03			0.03	0.03		
		長野植防 (南信)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.19	0.19			0.28	0.26		
			3	3	0.33	0.32			0.21	0.21		
			3	7	0.03	0.03			0.16	0.16		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回 数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
なす (施設) (果実) 平成5年度 (参考データ)	トレボンVPくん煙剤 くん煙剤(6%) 20g/100m ³ くん煙	大阪農技 センター	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	1	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
			3	4	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
		高知農技 センター	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	1	<0.01	<0.01			0.008	0.008		
			3	3	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
きゅうり (施設) (果実) 59年度	乳剤(20%) 1000倍 250L/10a 散布	茨城園試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.13	0.12			0.13	0.13		
			3	3	0.04	0.04			0.06	0.06		
			3	7	0.03	0.03			0.05	0.05		
		埼玉植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.13	0.13			0.18	0.18		
			3	3	0.04	0.04			0.06	0.06		
			3	7	<0.01	<0.01			0.01	0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
きゅうり (施設) (果実) 平成12年度	マイクロアセル剤 (20%) 1000倍 300又は 220.4、251.8L/10a 散布	岐阜植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	0.16	0.16			0.163	0.162		
			3	3	0.09	0.09			0.108	0.108		
			3	7	0.02	0.02			0.027	0.026		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	0.55	0.54			0.518	0.510		
			3	3	0.37	0.36			0.304	0.296		
			3	7	0.09	0.08			0.067	0.066		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
きゅうり (施設) (果実) 平成23年度	マイクロアセル剤 (20%) 1000倍 200又は286L/10a 散布	石川植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.24	0.24			0.24	0.24		
			3	3	0.09	0.08			0.10	0.10		
			3	7	0.02	0.02			0.02	0.02		
		奈良植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	1	0.18	0.18			0.12	0.12		
			3	3	0.06	0.06			0.05	0.05		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
きゅうり (施設) (果実) 平成3年度 (参考データ)	トレボンVPくん煙剤 くん煙剤(6%) 20g/100m ³ くん煙	鯉淵学園 (茨城)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	1	0.03	0.02			0.014	0.014		
			3	3	<0.01	<0.01			0.011	0.011		
		日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	1	0.04	0.04			0.041	0.040		
			3	3	0.01	0.01			0.015	0.015		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学テック株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
かぼちゃ (施設) (果実) 平成 8、 11 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	岩手植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	0.51	0.49			0.416	0.373		
			3	3	0.37	0.36			0.264	0.244		
			3	7	0.27	0.26			0.182	0.158		
		鹿児島農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	0.13	0.12			0.127	0.126		
			3	4	0.09	0.08			0.081	0.079		
			3	7	0.08	0.08			0.060	0.060		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
すいか (施設) (果肉) 平成 3 年度	乳剤(20%) 1000 倍 95~200 又は 200L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	3	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
		石川植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	3	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
すいか (施設) (果肉) 平成 22 年度	乳剤(20%) 1000 倍 204~280 又は 280L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	3	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日 数	分 析 結 果 (ppm)								
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関				
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス				
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
メロン (施設) (果肉) 平成2年度	乳剤(20%) 1000倍 400L/10a 散布	静岡農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004			
			4	3	0.01	0.01			0.031	0.031			
			4	7	0.02	0.02			0.039	0.039			
		愛知農総試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004			
			4	3	0.01	0.01			0.021	0.021			
			4	7	<0.01	<0.01			0.018	0.018			
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント					
メロン (施設) (果肉) 平成23、 22年度	乳剤(20%) 1000倍 279、283又は 300L/10a 散布	日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
			4	3	0.02	0.02			0.02	0.02			
			4	7	0.02	0.02			0.02	0.02			
			4	14	0.03	0.03			0.03	0.03			
		熊本農研 センター	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01			
			4	3	0.03	0.03			0.03	0.03			
			4	7	0.03	0.03			0.04	0.04			
			4	7	0.03	0.03			0.03	0.03			
			4	14	0.03	0.03			0.03	0.03			
				(株)化学分析コンサルタント									
にがうり (施設) (果実) 平成16年度	乳剤(20%) 1000倍 100~200又は 202L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01			
			3	1	—	—			0.58	0.56			
			3	3	—	—			0.30	0.30			
			3	7	—	—			0.39	0.38			
			3	14	—	—			0.17	0.16			
			日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
				3	1	—	—			0.20	0.20		
				3	3	—	—			0.11	0.11		
		3		7	—	—			0.05	0.05			
		3	14	—	—			<0.01	<0.01				

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
にがうり (施設) (果実) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 228 又は 256L/10a 散布	日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	1	—	—			0.24	0.23		
			3	3	—	—			0.18	0.18		
			3	7	—	—			0.07	0.07		
		鹿児島農環協	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	1	—	—			0.14	0.14		
			3	3	—	—			0.09	0.08		
			3	7	—	—			0.02	0.02		
					(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント			
オクラ (果実) 平成 8 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	1.12	1.10			0.979	0.936		
			3	3	0.55	0.54			0.388	0.367		
			3	7	0.05	0.05			0.018	0.016		
		沖縄農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.005	<0.005		
			3	1	0.16	0.16			0.120	0.113		
			3	3	0.06	0.06			0.090	0.086		
			3	7	0.03	0.03			0.037	0.036		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
しょうが (根茎) 平成 5 年度	乳剤(20%) 1000 倍 150L/10a 散布	日植防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	7	<0.01	<0.01			0.008	0.008		
			3	14	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
		日植防研 (高知)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	7	0.02	0.02			0.054	0.054		
			3	14	<0.01	<0.01			0.004	0.004		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
しょうが (根茎) 平成 8 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 地上散布	高知農技センター (香我実町)	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			0.007	0.007		
			1	14	—	—			<0.005	<0.005		
		高知農技センター (土佐市)	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			0.007	0.007		
			1	14	—	—			0.006	0.006		
									三井化学(株)			
しょうが (根茎) 平成 8 年度	トレボンエアー (乳剤 10%) 8 倍 1.6L/10a 無人ヘリ散布	高知農技センター (香我実町)	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			<0.005	<0.005		
			1	14	—	—			<0.005	<0.005		
		高知農技センター (土佐市)	0	—	—	—			<0.005	<0.005		
			1	7	—	—			<0.005	<0.005		
			1	14	—	—			<0.005	<0.005		
									(株)化学分析コンサルタント			
葉しょうが** (施設) (塊茎及び茎) 平成 16 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	茨城農総センター (北浦町)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.34	0.34		
			3	14	—	—			0.12	0.12		
		千葉農総センター (八街市)	3	21	—	—			0.09	0.08		
			0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.20	0.20		
			3	14	—	—			0.13	0.13		
			3	21	—	—			0.10	0.10		

** 適用拡大申請中(2015年5月21日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(株)化学分析コンサルタント							
葉しょうが** (施設) (塊茎及び茎) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 187 又は 180L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			1.64	1.59		
			3	14	—	—			0.74	0.74		
			3	21	—	—			0.44	0.43		
		日植防研 (高知)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.18	0.18		
			3	14	—	—			0.14	0.14		
			3	21	—	—			0.07	0.06		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
さやえんどう (施設) (さや) 平成 2 年度	乳剤(20%) 1000 倍 150L/10a 散布	和歌山植防	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01		
			2	1	0.35	0.34			0.41	0.40		
			2	7	0.05	0.04			0.21	0.20		
			2	14	<0.02	<0.02			0.11	0.11		
			2	21	<0.02	<0.02			0.03	0.03		
		広島農試	0	—	<0.02	<0.02			<0.01	<0.01		
			2	1	0.79	0.79			1.06	1.05		
			2	7	0.27	0.26			0.46	0.46		
			2	14	0.16	0.16			0.23	0.22		
			2	21	<0.02	<0.02			0.07	0.07		

** 適用拡大申請中(2015年5月21日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
								(株)化学分析コンサルタント				
さやえんどう (施設) (さや) 平成 26 年度	乳剤(20%) 1000 倍 190 又は 200 又は 189L/10a 散布	日植防茨城	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	1	—	—			0.55	0.53		
			2	3	—	—			0.36	0.35		
			2	7	—	—			0.23	0.22		
		和歌山植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	1	—	—			0.79	0.79		
			2	3	—	—			0.53	0.52		
			2	7	—	—			0.06	0.06		
		日植防高知	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	1	—	—			1.15	1.14		
			2	3	—	—			0.91	0.91		
			2	7	—	—			0.31	0.30		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
さやいんげん (さや) 平成 2 年度	乳剤(20%) 1000 倍 150L/10a 散布	福島植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			2	7	0.84	0.82			0.874	0.860		
			2	14	0.16	0.16			0.224	0.214		
			2	21	<0.01	<0.01			0.010	0.010		
		日植防研 (宮崎)	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			2	7	0.19	0.18			0.226	0.218		
			2	14	0.03	0.03			0.036	0.036		
			2	21	0.01	0.01			0.022	0.021		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
(財)日本食品分析センター												
さやいんげん ** (施設) (さや) 平成 25,26 年度 (GLP)	乳剤(20%) 1000 倍 167 又は 180 又は 179L/10a 散布	群馬植防	0	—	<0.01	<0.01			—	—		
			2	1	1.15	1.14			—	—		
			2	3	0.91	0.90			—	—		
			2	7	0.46	0.44			—	—		
		日植防高知	0	—	<0.01	<0.01			—	—		
			2	1	1.22	1.21			—	—		
			2	3	0.77	0.76			—	—		
			2	7	0.47	0.46			—	—		
		日植防茨城	0	—	<0.01	<0.01			—	—		
			2	1	0.76	0.76			—	—		
			2	3	0.58	0.58			—	—		
			2	7	0.23	0.22			—	—		

** 適用拡大申請中(2015年5月21日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
えだまめ (さや) 58、59 年度	乳剤(20%) 1000 倍 150L/10a 散布	福島農試 (相馬)	0	—	0.02	0.02			<0.01	<0.01		
			2	7	1.72	1.66			1.32	1.31		
			2	14	1.10	1.08			1.05	1.04		
			2	21	0.27	0.26			0.33	0.33		
		長野農事試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	7	1.50	1.49			1.24	1.22		
			2	14	1.02	1.02			0.69	0.68		
			2	21	0.20	0.19			0.11	0.10		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
えだまめ (さや) 平成 7 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 150L/10a 散布	新潟農技センター	0	—	<0.01	<0.01			0.005	0.005		
			2	14	0.41	0.40			0.497	0.460		
			2	21	0.48	0.48			0.743	0.720		
			2	28	0.24	0.24			0.369	0.356		
		千葉農試	0	—	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
			2	14	0.66	0.66			1.180	1.150		
			2	21	0.32	0.31			0.651	0.607		
			2	28	0.12	0.12			0.206	0.188		
				(財)日本食品分析センター				(株)化学分析コンサルタント				
えだまめ (さや) 平成 23 年度	マイクロカプセル剤 (20%) 1000 倍 150 又は 153~196L/10a 散布	青森植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	14	0.69	0.66			0.70	0.67		
			2	21	0.47	0.45			0.36	0.35		
			2	28	0.29	0.28			0.25	0.24		
		大分肥料植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			2	14	1.10	1.09			1.08	1.05		
			2	21	0.77	0.76			0.68	0.68		
			2	28	0.53	0.52			0.39	0.39		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
れんこん (根茎) 平成5年度	粒剤(1.5%) 4kg/10a 散布	新潟農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			0.008	0.008		
			3	21	<0.01	<0.01			0.005	0.004		
			3	28	—	—			<0.004	<0.004		
		石川植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			0.010	0.010		
			3	21	<0.01	<0.01			0.004	0.004		
							(財)日本食品分析センター				三井化学(株)	
れんこん (根茎) 平成5年度	粉剤(0.5%) 4kg/10a 散布	新潟農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	28	—	—			<0.004	<0.004		
		石川防研	0	—	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	14	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
			3	21	<0.01	<0.01			<0.004	<0.004		
							香川県農業試験場					
エンサイ (茎葉) 平成15、 16年度	トレボンEW (乳剤10%) 1000倍 250L/10a 散布	香川農試 (高松市 一宮町)	0	—	<0.05	<0.05			—	—		
			2	7	0.96	0.94			—	—		
			2	14	0.32	0.32			—	—		
			2	21	<0.05	<0.05			—	—		
		香川農試 (高松市 仏生山町)	0	—	<0.05	<0.05			—	—		
			2	7	2.91	2.85			—	—		
			2	14	0.65	0.64			—	—		
			2	21	0.10	0.10			—	—		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
エンサイ (茎葉) 平成 23 年度	トレボン EW (乳剤 10%) 1000 倍 260L/10a 散布	香川農試 (高松市 仏生山町)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			4.29	4.24		
			2	14	—	—			1.01	0.99		
			2	21	—	—			0.70	0.70		
		香川農試 (綾歌郡 綾川町)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			5.09	5.00		
			2	14	—	—			1.61	1.56		
			2	21	—	—			0.66	0.66		
青森県農林総合研究センター												
やまのいも (むかご) 平成 16 年度	乳剤(20%) 1000 倍 300L/10a 散布	青森農林総研 センター	0	—	<0.02	<0.02			—	—		
			3	14	2.43	2.40			—	—		
			3	21	1.42	1.37			—	—		
			3	30	0.40	0.40			—	—		
		鳥取園試	0	—	<0.02	<0.02			—	—		
			3	14	1.58	1.58			—	—		
			3	21	0.75	0.75			—	—		
			3	30	0.21	0.20			—	—		
(株)化学分析コンサルタント												
やまのいも (むかご) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	青森植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.75	0.72		
			3	21	—	—			0.52	0.50		
			3	28	—	—			0.34	0.32		
		石川植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			0.36	0.35		
			3	21	—	—			0.17	0.17		
			3	28	—	—			0.18	0.18		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
未成熟ささげ (施設) (さや) 平成 16 年度	乳剤(20%) 1000 倍 250L/10a 散布	高知農技センター (南国)	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			2	1	2.8	2.8			—	—		
			2	3	1.8	1.8			—	—		
			2	7	0.6	0.6			—	—		
		高知農技センター (香我美)	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			2	1	1.9	1.9			—	—		
			2	3	1.0	1.0			—	—		
			2	7	0.1	0.1			—	—		
								(株)化学分析コンサルタント				
未成熟ささげ (施設) (さや) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200 又は 178L/10a 散布	高知農技センター (南国)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	1	—	—			2.62	2.58		
			2	3	—	—			1.14	1.08		
			2	7	—	—			0.14	0.14		
		日植防研 (高知)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	1	—	—			2.46	2.44		
			2	3	—	—			1.10	1.08		
			2	7	—	—			0.13	0.12		
								(株)エスコ				
モロヘイヤ (茎葉) 平成 16 年度	乳剤(20%) 1000 倍 220 又は 204L/10a 散布	三重科技 振興センター (松坂市)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			1	3	—	—			10.90	10.80		
			1	7	—	—			3.15	3.11		
			1	14	—	—			0.65	0.65		
		三重科技 振興センター (明和町)	0	—	—	—			0.02	0.02		
			1	3	—	—			6.76	6.69		
			1	7	—	—			2.65	2.60		
			1	14	—	—			0.16	0.16		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
モロヘイヤ (施設) (茎葉) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 190 又は 180L/10a 散布	日植防研	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			1	3	—	—			7.38	7.30		
			1	7	—	—			0.95	0.93		
			1	14	—	—			0.02	0.02		
		日植防研 (高知)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			1	3	—	—			4.73	4.62		
			1	7	—	—			1.43	1.39		
			1	14	—	—			0.11	0.10		
大阪食とみどり技術センター												
さといも葉柄 (施設) (葉柄) 平成 17 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	愛知総試	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			3	7	0.3	0.3			—	—		
			3	14	0.1	0.1			—	—		
			3	21	<0.1	<0.1			—	—		
		大阪食とみどり 技術センター	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			3	7	0.3	0.2			—	—		
			3	14	0.2	0.2			—	—		
			3	21	<0.1	<0.1			—	—		
(株)化学分析コンサルタント												
さといも葉柄 (施設) (葉柄) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 300 又は 200L/10a 散布	愛知総試	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.56	0.54		
			3	14	—	—			0.26	0.26		
			3	21	—	—			0.19	0.19		
		大阪環境 農林水産総合 研究所	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.42	0.41		
			3	14	—	—			0.40	0.40		
			3	21	—	—			0.20	0.19		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンブロックス				エトフェンブロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
うど (施設) (軟化茎葉) 平成 15 年度	乳剤(20%) 1000 倍 300L/10a 散布	秋田農試 (能代)	0	—	—	—			<0.02	<0.02		
			2	195	—	—			<0.02	<0.02		
			2	202	—	—			<0.02	<0.02		
		秋田農試 (二ツ井)	0	—	—	—			<0.02	<0.02		
			2	199	—	—			<0.02	<0.02		
			2	206	—	—			<0.02	<0.02		
栃木県農業試験場												
うど (軟化茎葉) 平成 18 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	栃木農試 (大田原)	0	—	<0.01	<0.01			—	—		
			2	42	<0.01	<0.01			—	—		
		栃木農試 (那須塩原)	0	—	<0.01	<0.01			—	—		
			2	42	<0.01	<0.01			—	—		
栃木県農業試験場												
うど (軟化茎葉) 平成 18 年度	トレボン EW (乳剤 10%) 1000 倍 200L/10a 散布	栃木農試 (大田原)	0	—	<0.01	<0.01			—	—		
			2	42	<0.01	<0.01			—	—		
		栃木農試 (那須塩原)	0	—	<0.01	<0.01			—	—		
			2	42	<0.01	<0.01			—	—		
(株)化学分析コンサルタント												
うど (軟化茎葉) 平成 23 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200L/10a 散布	栃木農試 (大田原)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	45	—	—			<0.01	<0.01		
		栃木農試 (那須塩原)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	43	—	—			<0.01	<0.01		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					秋田県農林水産技術センター							
ほうきぎ* (果実全体) 平成 19 年度	乳剤(20%) 1000 倍 300L/10a 散布	秋田農試 (秋田市)	0	—	<0.30	<0.30			—	—		
			2	14	7.94	7.79			—	—		
			2	28	5.60	5.44			—	—		
			2	35	3.73	3.50			—	—		
		秋田農試 (大館市)	0	—	<0.30	<0.30			—	—		
			2	14	8.45	8.24			—	—		
			2	28	4.62	4.39			—	—		
			2	35	3.80	3.65			—	—		
					(株)化学分析コンサルタント							
ほうきぎ* (果実全体) 平成 24 年度	乳剤(20%) 1000 倍 200、250L 又は 160~200L /10a 散布	秋田農試 (秋田市)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	28	—	—			1.76	1.76		
			2	35	—	—			1.11	1.10		
			2	42	—	—			0.18	0.16		
		秋田農試 (大館市)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	27	—	—			0.87	0.84		
			2	35	—	—			0.31	0.29		
			2	42	—	—			0.05	0.04		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
温州みかん (無袋) (露地) (果肉) 61 年度	乳剤(20%) 1000 倍 500 又は 800L/10a 散布	静岡柑橘試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			0.03	0.03		
			3	20	<0.01	<0.01			0.02	0.02		
			3	28	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
		大分柑橘試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	21	<0.01	<0.01			0.02	0.02		
			3	28	<0.01	<0.01			0.01	0.01		

* 適用拡大申請中(2013年9月10日付)

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アクロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
温州みかん (無袋) (露地) (果皮) 61年度	乳剤(20%) 1000倍 500又は800L/10a 散布	静岡柑橘試	0	—	0.08	0.08			0.12	0.12		
			3	14	7.18	6.90			6.47	6.46		
			3	20	6.57	6.43			4.11	4.06		
			3	28	5.24	5.04			3.16	3.14		
		大分柑橘試	0	—	0.10	0.10			0.01	0.01		
			3	14	11.40	11.40			8.30	8.28		
			3	21	9.64	9.35			7.28	7.13		
			3	28	7.60	7.46			6.08	5.98		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
なつみかん (果肉) 58年度	乳剤(20%) 1000倍 600又は500L/10a 散布	静岡柑橘試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.02	0.02			0.05	0.05		
			3	21	0.01	0.01			0.03	0.02		
			3	28	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		大分柑橘試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.01	0.01			0.01	0.01		
			3	21	0.03	0.02			<0.01	<0.01		
			3	28	0.01	0.01			<0.01	<0.01		
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
なつみかん (果皮) 58年度	乳剤(20%) 1000倍 600又は500L/10a 散布	静岡柑橘試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	4.17	4.06			2.97	2.93		
			3	21	4.01	3.82			2.97	2.96		
			3	28	4.21	4.04			3.15	3.08		
		大分柑橘試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	3.18	3.10			2.43	2.39		
			3	21	3.28	3.11			2.05	2.02		
			3	28	2.78	2.77			2.06	2.00		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
なつみかん (全果実) 58年度	乳剤(20%) 1000倍 600又は500L/10a 散布	静岡柑橘試	0	—	—	<0.01			—	<0.01		
			3	14	—	1.03			—	0.77		
			3	21	—	0.92			—	0.73		
			3	28	—	1.06			—	0.81		
		大分柑橘試	0	—	—	<0.01			—	<0.01		
			3	14	—	1.00			—	0.77		
			3	21	—	1.01			—	0.65		
			3	28	—	0.89			—	0.65		
								(株)化学分析コンサルタント				
すだち (果実) 平成18年度	乳剤(20%) 1000倍 500L/10a 散布	徳島植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			2.72	2.70		
			3	21	—	—			1.98	1.92		
			3	28	—	—			0.98	0.95		
かぼす (果実) 平成18年度	乳剤(20%) 1000倍 640L/10a 散布	大分肥料植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			1.00	0.98		
			3	21	—	—			0.76	0.75		
			3	28	—	—			0.84	0.80		
								(株)化学分析コンサルタント				
すだち (果実) 平成23年度	乳剤(20%) 1000倍 500L/10a 散布	徳島植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	15	—	—			1.91	1.90		
			3	21	—	—			1.72	1.70		
			3	28	—	—			1.35	1.31		
かぼす (果実) 平成23年度	乳剤(20%) 1000倍 615L/10a 散布	大分肥料植防	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	14	—	—			2.34	2.34		
			3	21	—	—			2.92	2.89		
			3	28	—	—			1.79	1.79		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
りんご (無袋) (果実) 58年度	水和剤(20%) 1000倍 600又は500L/10a 散布	長野植防	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.41	0.39			0.23	0.22		
			3	21	0.28	0.28			0.16	0.16		
			3	28	0.31	0.29			0.16	0.16		
		富山農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.82	0.80			0.55	0.54		
			3	21	0.70	0.70			0.58	0.58		
			3	28	0.59	0.56			0.32	0.32		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
なし (無袋) (果実) 58年度	水和剤(20%) 1000倍 400又は500L/10a 散布	秋田果試 (天王)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.23	0.23			0.72	0.72		
			3	21	0.22	0.21			0.35	0.34		
			3	27	0.22	0.22			0.32	0.32		
			3	41	0.20	0.19			0.27	0.26		
		長野南信農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	0.53	0.52			0.63	0.62		
			3	21	0.49	0.46			0.50	0.50		
			3	28	0.30	0.30			0.34	0.34		
			3	42	0.17	0.16			0.11	0.11		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
もも (無袋) (果肉) 59年度	水和剤(20%) 1000倍 400L/10a 散布	山梨果試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	14	<0.01	<0.01			0.02	0.02		
			3	21	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	28	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		新潟園試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	7	0.01	0.01			0.02	0.02		
			3	14	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	21	0.03	0.02			0.01	0.01		
		3	28	0.02	0.02			<0.01	<0.01			
もも (無袋) (果皮) 59年度	水和剤(20%) 1000倍 400L/10a 散布	山梨果試	0	—	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02		
			3	14	3.72	3.70			5.50	5.46		
			3	21	4.24	4.22			7.28	7.22		
			3	28	1.28	1.26			2.59	2.59		
		新潟園試	0	—	4.60	4.45			0.02	0.02		
			3	7	5.61	5.56			6.56	6.50		
			3	14	6.75	6.55			7.53	7.44		
			3	21	5.80	5.54			4.82	4.81		
		3	28	5.49	5.40			3.28	3.28			

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経過 日数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
				(財)日本食品分析センター				三井化学(株)				
かき (無袋) (果実) 59年度	水和剤(20%) 1000倍 500L/10a 散布	奈良農試	0	—	<0.01	<0.01			0.01	0.01		
			3	21	0.75	0.74			0.91	0.91		
			3	28	0.62	0.59			0.73	0.72		
			3	42	0.45	0.44			0.55	0.54		
		徳島果試 (県北)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			3	20	1.16	1.15			1.16	1.16		
			3	27	0.70	0.68			0.85	0.85		
			3	42	0.57	0.57			0.62	0.62		
								(株)化学分析コンサルタント				
マンゴー (無袋) (施設) (果実) 平成20年度	乳剤(20%) 1000倍 400又は300L/10a 散布	日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			2.04	2.00		
			3	14	—	—			1.73	1.68		
			3	21	—	—			1.30	1.24		
		鹿児島農環協	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			1.51	1.51		
			3	14	—	—			1.24	1.20		
			3	21	—	—			1.55	1.50		
								(株)化学分析コンサルタント				
マンゴー (無袋) (施設) (果実) 平成23年度	乳剤(20%) 1000倍 360又は500L/10a 散布	日植防研 (宮崎)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			0.65	0.65		
			3	14	—	—			0.66	0.64		
			3	21	—	—			0.56	0.54		
		沖縄農業研 センター	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			3	7	—	—			2.24	2.24		
			3	14	—	—			1.15	1.11		
			3	21	—	—			0.86	0.85		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
くり (果実) 60年度	乳剤(20%) 1000倍 500又は400L/10a 散布	石川農試 (能登)	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	8	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	20	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
		山口農試	0	—	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	8	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	14	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
			4	22	<0.01	<0.01			<0.01	<0.01		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
茶 (覆下) (荒茶) 58年度	乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布	佐賀茶試	0	—	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02		
			2	7	16.50	16.00			22.40	22.20		
			2	14	10.30	10.10			13.70	13.60		
			2	21	1.49	1.49			1.68	1.62		
		鹿児島茶試	0	—	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02		
			2	7	68.60	67.40			71.10	70.70		
			2	14	20.40	20.40			22.90	22.80		
			2	21	3.84	3.62			3.98	3.98		
					(財)日本食品分析センター				三井化学(株)			
茶 (覆下) (浸出液) 58年度	乳剤(20%) 1000倍 200L/10a 散布	佐賀茶試	0	—	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02		
			2	7	0.07	0.06			0.08	0.08		
			2	14	0.04	0.04			0.03	0.03		
			2	21	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02		
		鹿児島茶試	0	—	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02		
			2	7	0.52	0.52			0.32	0.32		
			2	14	0.14	0.14			0.07	0.06		
			2	21	0.02	0.02			0.02	0.02		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学テックロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
鳥取県農業試験場												
畑わさび (花及び花茎) 平成 18 年度	粒剤(1.5%) 植付時植溝 土壌混和 1 回 3kg/10a 散布 1 回 3kg/10a	鳥取園試	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			2	7	0.2	0.2			—	—		
			2	14	0.2	0.2			—	—		
			2	21	<0.1	<0.1			—	—		
		八頭農業改良 普及所	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			2	7	<0.1	<0.1			—	—		
			2	14	<0.1	<0.1			—	—		
			2	21	<0.1	<0.1			—	—		
畑わさび (葉:葉柄含) 平成 18 年度	粒剤(1.5%) 植付時植溝 土壌混和 1 回 3kg/10a 散布 1 回 3kg/10a	鳥取園試	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			2	7	0.4	0.4			—	—		
			2	14	0.2	0.2			—	—		
			2	21	<0.1	<0.1			—	—		
		八頭農業改良 普及所	0	—	<0.1	<0.1			—	—		
			2	7	0.3	0.3			—	—		
			2	14	0.2	0.2			—	—		
			2	21	<0.1	<0.1			—	—		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

作物名 (栽培形態) (分析部位) 年度	剤型(有効成分量) 希釈倍数又は 使用量 使用方法	試料調製場所	使用 回数	経 過 日 数	分 析 結 果 (ppm)							
					公 的 分 析 機 関				社 内 分 析 機 関			
					エトフェンプロックス				エトフェンプロックス			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
								(株)化学分析コンサルタント				
畑わさび (花及び花茎) 平成 24 年度	粒剤(1.5%) 植付時植溝 土壌混和 1 回 3kg/10a 散布 1 回 3kg/10a	鳥取農林総研 (東伯郡)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			0.18	0.18		
			2	14	—	—			0.15	0.15		
			2	21	—	—			<0.01	<0.01		
		鳥取農林総研 (八頭郡)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			0.21	0.21		
			2	14	—	—			0.09	0.09		
			2	21	—	—			0.01	0.01		
畑わさび (葉:葉柄含) 平成 24 年度	粒剤(1.5%) 植付時植溝 土壌混和 1 回 3kg/10a 散布 1 回 3kg/10a	鳥取農林総研 (東伯郡)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			0.23	0.22		
			2	14	—	—			0.19	0.18		
			2	21	—	—			0.03	0.02		
		鳥取農林総研 (八頭郡)	0	—	—	—			<0.01	<0.01		
			2	7	—	—			0.35	0.34		
			2	14	—	—			0.35	0.34		
			2	21	—	—			0.04	0.04		

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

2. 乳汁への移行試験

(1) 親化合物 I (エトフェンプロックス)の乳牛における乳汁及び組織中の残留動態試験

試験機関:Huntingdon Research Center(英国)

(GLP 対応)

報告書作成年:1987 年

供試化合物:

名称: 親化合物 I (エトフェンプロックス)

化学名: 2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンジル=エーテル

純度:

供試動物: Friesian 乳牛、体重:470~610 kg、1 群 3~5 頭、開始時 4 及び 9 年齢

試験方法:

投与期間:4 週間(28~30 日間)(1986 年 11 月 18 日~1986 年 12 月 15~17 日)

群の構成:

群	供試化合物	用量 (mg/動物/日)	動物数 (頭) ^a	動物 番号	投与 日数	休薬 日数	屠殺時期 (試験日)
A	対照	0	3	1	0	0	29
				2	0	0	屠殺せず
				3	0	0	43
B	親化合物 I (エトフェンプロ ックス)	10	3	4	28	0	29
				5	29	0	30
				6	30	0	31
C	親化合物 I (エトフェンプロ ックス)	30	3	7	28	0	29
				8	29	0	30
				9	30	0	31
D	親化合物 I (エトフェンプロ ックス)	1000	5	10	30	0	31
				11	29	0	30
				12	28	0	29
				13 ^a	28	14	43
				14 ^a	28	14	43

a:動物 13 及び 14 は 28 日間投与した後、親化合物 I (エトフェンプロックス)を含まない飼料を 14 日間給餌した

投与飼料の調製:

親化合物 I (エトフェンプロックス)をコーンオイルに溶解し、有効成分として 10 mg/mL の溶液を毎週調製した。この溶液の所定量を濃厚飼料(濃厚飼料 4.0 kg/動物/日)及び少量のビートパルプに混合して、投与飼料とした。

投与: 1日に2回、午前及び夕方の搾乳後に一日投与量(0、10、30及び1000 mg/動物/日)の半分ずつ4週間毎日投与した。なお、B及びC群の動物には試験1及び2日は

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

誤って1日量を2回投与した。対照群にはコーンオイルのみ同様に投与した。干草は約16 kg/動物/日を給餌した。

観察・試料の採取:

一般状態: 毎日観察した。

体重: 投与開始前日(試験1日前)及び屠殺前(試験28日)に測定した。

摂餌量: 試験7日前から毎日2回濃厚飼料を測定した。

乳汁: 試験7日前から毎日2回、屠殺するまで個別別に採取し、午前と夕方の乳汁を混合して1日の搾乳量とした。各動物から一部を採り、群別にプールした。休薬期間中の乳汁はプールしなかった。

採取組織: 最終投与17~24時間後に動物を屠殺/剖検した後、以下の部位から試料を4点ずつ採取した(対照群の1動物は屠殺しなかった)。

皮下脂肪	骨格筋(2~3部位から採取し混合)
腹膜脂肪(網/腎周囲試料を混合)	肝臓 腎臓

分析方法: 試料を酢酸エチル/ヘキサンで抽出後、濃縮し、組織の場合は、さらにアセトニトリル/ヘキサンで分配し、有機層をフロリジルカラムに適用した。親化合物I(エトフェンプロックス)含有溶離液を濃縮後、ヨードトリメチルシランで3-フェノキシベンジルヨウ素誘導体とし、ECD付ガスクロマトグラフィーで定量した。

試験結果:

一般症状: 全ての動物とも健康で、親化合物I(エトフェンプロックス)投与に起因する異常は認められなかった。

体重: 投与による影響は認められなかった。

摂餌量: ほとんどの動物群は給餌濃厚飼料を全て摂取したが、1000 mg/動物群の1例は舌を切った影響で、試験27日午後は約半量しか摂取しなかった。

搾乳量: 投与関連性の影響は認められなかったが、全群とも授乳期の終わりで各動物の予想搾乳量より若干減少した。

肉眼的病理検査:

認められた所見は偶発的な変化で、投与関連性の影響は認められなかった。

乳汁中の残留:

残留の平均値($\mu\text{g/g}$)を次表に示す。

投与期間中の残留:

A群(対照)及びB群(10 mg)では残留は認められなかった。

C群(30 mg)では最大濃度が0.05 $\mu\text{g/g}$ で、ごく低濃度の残留が認められた。

D群(1000 mg)では投与2日には0.66 $\mu\text{g/g}$ 検出され、日変動があるが、投与23日に2.11 $\mu\text{g/g}$ の最大濃度に達した。投与5~28日までの平均値は1.36 $\mu\text{g/g}$ で、この辺りの濃度で定常に達しているものと考えられる。

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

14 日間の休薬期間中の残留の消失:

休薬 2 日(試験 30 日)の平均残留値は 1.14 $\mu\text{g/g}$ で、2 動物間で変動 (0.62 及び 1.66 $\mu\text{g/g}$)が見られたが、その後、動物間で大差はなく、休薬 14 日(試験 42 日)には平均で 0.10 $\mu\text{g/g}$ と急速に低下した。

乳汁中の残留(平均値 $\mu\text{g/g}$)

試料採取時期 (投与後日数)	群(投与量(mg/動物/日))			
	A 群 (0)	B 群 (10)	C 群 (30)	D 群 (1000)
投与 1 日前	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
投 与 期 間	2 日			0.66
	5 日			1.42
	7 日	<0.05	<0.05	0.05
	10 日			0.84
	12 日			1.12
	14 日	<0.05	<0.05	0.05
	18 日			1.05
	21 日			1.63
	23 日			2.11
	25 日			1.12
休 薬 期 間 ^a	28 日	<0.05	<0.05	<0.05
	30 日			1.14
	32 日			0.42
	34 日			0.22
	36 日			0.16
	38 日			0.16
	40 日			0.17
42 日	<0.05			0.10

^a: D 群の動物は 28 日間投与した 2 動物の平均値。

検出限界: 0.05 $\mu\text{g/g}$

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

組織中の残留：個体別組織中の残留値(μg/g)を次表に示す。

群	投与量 (mg/動物/日)	動物 番号	組織(μg/g)				
			肝臓	腎臓	骨格筋	腹膜脂肪	皮下脂肪
A	0(対照)	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
		3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
B	10	4	<0.05	<0.05	<0.05	0.412	0.080
		5	<0.05	<0.05	<0.05	0.205	0.117
		6	<0.05	<0.05	<0.05	0.538	0.283
C	30	7	<0.05	0.051	<0.05	1.886	0.175
		8	<0.05	<0.05	<0.05	0.840	0.065
		9	<0.05	<0.05	<0.05	0.977	0.500
D	1000	10	0.359	1.160	0.099	14.314	3.065
		11	0.252	0.621	0.076	1.773	1.020
		12	0.628	0.080	0.353	13.374	3.543
		13 ^a	0.054	0.227	0.050	4.150	0.331
		14 ^a	<0.05	0.227	0.050	11.777	3.005

^a:動物 13 及び 14 は 28 日間投与した後、親化合物 I (エトフェンプロックス)を含まない飼料を 14 日間給餌した
検出限界:0.05 μg/g

投与終了後の残留：

A 群(対照)では残留は認められなかった。

B 群(10 mg)では肝臓、腎臓及び骨格筋に残留は認められなかった。低濃度の残留が腹膜脂肪及び皮下脂肪に最大でそれぞれ 0.538 及び 0.283 μg/g 認められた。

C 群(30 mg)では肝臓及び骨格筋で残留は認められなかったが、1 例の腎臓で検出限界をごく僅かに上回る低濃度の残留(0.051 μg/g)が認められた。腹膜脂肪及び皮下脂肪に最大でそれぞれ 1.886 及び 0.500μg/g の残留が認められた。

D 群(1000 mg)では分析した全ての組織で残留が認められ、残留の最大値は腹膜脂肪で最も高く(14.314 μg/g)、次いで皮下脂肪(3.543 μg/g)で、腎臓、肝臓及び骨格筋の順に低かった(それぞれ 1.160、0.628 及び 0.353 μg/g)。

14 日間の休薬期間終了後の残留：

休薬 14 日後でも全ての組織で残留が認められ、動物間に差が見られたが腹膜脂肪が最大(4.150 及び 11.777 μg/g)で、次いで、皮下脂肪(0.331 及び 3.005 μg/g)、腎臓(0.227 μg/g)で、肝臓及び骨格筋は検出限界(0.05 μg/g)に近い残留であった。

以上の結果より、乳牛に親化合物 I (エトフェンプロックス)を 10、30 及び 1000 mg/動物/日の用量で 28～30 日間投与し、乳汁及び組織中の残留を検査した。さらに、1000 mg/動物/日群の 2 例には試験 29 日から 14 日間休薬し、乳汁中の残留の消長及び休薬後の組織中の残留を検査した。10mg/動物/日では乳汁、肝臓、腎臓及び骨格筋ともに残留は認められなかったが、

本資料に記載された情報に係る権利及び内容の責任は三井化学アグロ株式会社にある。

脂肪にごく低濃度の残留が認められた。30 mg/動物/日群では乳汁及び腎臓でごく低濃度の残留(≤ 0.05 $\mu\text{g/g}$)が認められたが、肝臓及び骨格筋では残留は認められなかった。脂肪に低濃度の残留が認められた。

1000 mg/動物/日群において、乳汁中の残留は試験 5~28 日にわたり、約 1.36 $\mu\text{g/mL}$ 程度で定常に達し、休薬期間中に漸減し、休薬 14 日後には 0.10 $\mu\text{g/mL}$ となった。組織中の残留は投与終了後に屠殺した 3 動物の全ての組織で認められ、脂肪中の残留が最も高かった。14 日間の休薬後、肝臓及び骨格筋は検出限界(0.05 $\mu\text{g/g}$)に近い残留であった。腎臓の残留は 0.227 $\mu\text{g/g}$ に減少した。脂肪中の残留は高かったが、動物間で大きな差が認められた。